

刊我
我自

武江年表

下



庫文閣內	
和	三六四〇
函	二
架	六
冊	二
號	〇
類	類



內閣文庫	
番號	和 36440
冊數	2 (2)
函號	141 89

(二本)



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



武江年表卷之十一

文久三年壬戌

八月間

齋藤幸成輯

○正月元日雪降積り尺に餘る廿日頃○正月より雨少く日々風吹く○同十一日夜九時町會所付神田受負地三之助物置より出火○雉子橋門外へ蕃書調所を移さる

○品川御殿山へ異國人の旅館を建○正月兩國橋西詰に駱駝と號して見せ物出づ

眞の駱駝に非ぞとぞ○同廿七日夜子刻四谷天龍寺門前家主孫二郎宅より出火

長壹丁半幅平均卅間程類焼す○晦日南大風夕八時過小石川指谷南片町續武家地

木村某宅より出火一武家方多く焼駒込片町北方半分肴町邊正念寺大圓寺淺嘉町

土物店北の方高林寺門前町家瑞泰寺の側同側組屋敷太田辰下屋敷長屋數棟

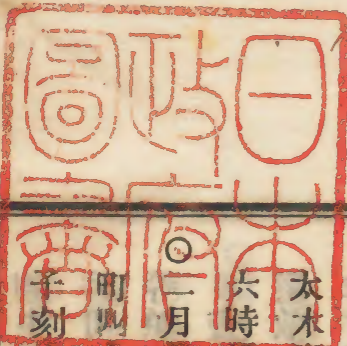
太木町西の方焼け大觀音光源寺大保福寺等へ殘る酒井浜下屋敷鷹匠組類焼夜

六時過鎮る長六町餘幅平均壹町廿間程なり又田畑の邊栽木屋等所々類焼あり

○二月朔日暮六時過大名小路松平内藏頭殿中屋敷より出火諸侯六軒類焼あり長三

町四十間餘幅平均一町五十間程○六日己中刻牛込七軒寺町佛性寺災○同七日夜

十刻過芝増上寺門前の土手跡町材木屋炭薪屋の間より出火して濱松町四丁目西



武江年表卷之十一

文久壬戌

武江年表卷之十一

側中門前三丁目芝金杉通壹丁目二丁目三丁目自同裏壹丁目二丁目三丁目四丁目自同
 片町同濱町同朋町經覺寺門前西應寺町焼込戸田彦下屋敷酒井彦陣屋敷船置場
 等類焼長四町半幅平均して一丁半程なり寺院ハ十一ヶ寺焼る正傳寺殘る○同十
 日晝芝二本樓相福寺火○同十一日曉七時過下谷町壹丁目續常在寺より出火瀬川
 屋敷五條天神宮焼同所側より北の方迄新黒門町仁王門前御家來屋敷玉谷町壹丁
 二丁目目類焼す長一町十間餘幅五十間程なり雨少し降る○同十七日曉丑刻深川
 森下町浦五郎といふ者の宅より出火長一町程焼亡す○同十八日より六十日の間
 淺草寺町正覺寺にて中山法華寺鬼子母神開帳○同十九日北風烈しく成中刻江戸
 橋藏屋敷の内同橋際の見守番屋番人文藏万助の床店より失火して萬町通壹丁目
 東の方青物町平松町新右衛門町博正町南塗物町常盤町活鯛屋敷本材木町壹丁目
 より八丁目迄高輪代地松屋町へ火移り明方にてたり鎮る通り筋ハ中橋廣小路半
 分南傳馬町東側まで焼込町名ハ五十二町なり長十一町餘幅平均して一町五十間
 程なり同夜五時頃石川島焼る飛火にあらすとして○同廿日晝四時過麻布市兵衛
 町名主庄兵衛物置隣家境より出火武家地へ焼込坂江町も類焼す長二町十間餘幅
 平均して十間程なり○正月より雨なく日々風扇て火災度々あり○同廿五日より

六十日湯島天満宮開帳本社上藏造よて此た奉納小庭偶人等又巧者の細工にて牛
 と兎の作物等をさむ奇巧なり詣人多し○同廿八日より六十日の間南品川海晏寺
 觀世音齋洲明神舟玉明神并境内弁才天開帳境内ハ芝居興行あり

○三月四日曉丑刻深川永代寺門前町家持清吉慶之助宅の境より出火東仲町迄土橋
 焼亡長壹町十間餘幅十八間程なり○同日己刻本兩替町出火○同九日亥中刻芝西
 應寺町家持半七塀際より出火長壹町餘幅三右の外にも小火度々あり○淺草寺奥
 山良に假屋を建早竹虎吉再出る獨樂廻經業○春の頃より東叡山中堂修復翌年
 二月ハ成就す○隅田川花見武家の狼藉もの多し○三月廿四日より始り大川端細

川彦中屋敷清正公社開扉參詣をゆるさる是より毎月廿四日詣人群をなせり肥後
 本勸請の像を摸刻しあらたふ勸請せられし所おして等身の像といふ○千駄木邊の藝花園の庭中に色々の樹木の葉
 を以て人物其外の形を造りて見する各五節句の趣向なり

○四月日日を角舩人小柳某口論の遺恨を受一が夜中同輩不動山某と殿某と二人小柳
 が僑居お忍入てりれを斬害し即時二人とも官府へ自訴す○四月七日暮六時八丁
 堀水谷町受地より出火長壹町半幅三十間程類焼す○同廿一日より親鸞聖人六百
 年の遠忌ハ付築地門跡にて法會修行有去年十一月の延たるなり廿一日より廿五日迄日々雨降る

○五月海賊橋牧野疾屋敷國益會所に改らる七月に至りて沙汰止たり ○五月より相州藤澤山の遊行上人淺草日輪寺に止宿ありて道俗化益あり日々參詣多し ○同十二日明方和泉橋通種痘所燒亡

麻疹流行

○六月炎早數旬に及べり ○夏の半より麻疹世に行れ七月の半に至りて彌蔓延良賤男女この病痾ハ罹らざる家なし此病夙齡ハの輩に多く天保七年の麻疹に強年の人に稀なり凡男ハ輕く女ハ重しそれガ中に妊娠にして命を全ふせるもの甚少産後もこれに亞ぐ後に聞けば二月の頃西洋の船崎陽に泊してこの病を傳へ次第に京大坂に弘り三四月の頃より行れける由江戸に肇りし小石川某寺の所化何ヶし二人中國より江戸に來りし旅中に煩ひて四月の頃病中寺内へ入闔山の所化に傳染しけるが夫より五月の末に至り少く行れ六月の末より次第に熾ふして衆庶枕を並べて臥したり文政天保の度にはりこたひハ殊に劇して良醫も猥に藥餌ハを施す事あたはき或ハ吐し咳嗽を生ト手足厥冷に及ぶ鳥犀角ハ内攻を防ぐの藥なれど用ふる事度に過れば逆上して正氣を失ふに至るとぞ固より熱氣甚しく狂を發して水と飲んとしてハ嘔出し河溝へ身を投ト亦ハ井の中へ入て死るもありし醫師ハ巧拙をいはせし東西ハ奔走し藥舖ハ藥種を擇ばせし售

ふに違なく高價を食れるも多りるべしちりるに醫生も藥舖も又續て同病ハ罹れるも尠からせ製藥店招牌ハをかへけて售ふもあれど症分よりてハ應驗等しからざるもあるべし七月より別て盛にして命を失ふ者幾千人なりや量るべからせ三昧の寺院去る午年暴瀉病流行の時に倍して公驗を以て日を約し茶毗の烟とハなしぬ故に寺院ハ葬式と行ふにいとまなく日本橋上ハ一日棺の渡る事貳百に暨る日もありしとぞ又七月の半よりハ暴瀉の病にまさりし急症やむ者多くこれありしハ老少をいはせ即時兆し吐瀉甚しく片時の間に取詰て救藥すべからせ死後惣身赤くなるもの多しその中ハ麻疹の後食養生懈りて再感せるもありしとぞ又雀亂の類もありと聞り麻疹鳥獸も追して牛馬鶏犬の驚たるもあり錢湯風呂屋籠頭舖更に客なし花街の娼妓各煩ひて來客を迎へざる家多りし七月九日十日淺草寺千日詣參る人少く十六日閻魔參又同ト少年の走百病これなきが故なり兩國橋畔の夜舖七月半ハ更ハ燈燭を點する事なく納涼避暑の輩りつてなし相州大山に登るもの又稀にして道中より煩ひて歸りたるもありけり八月の半より町々木戸に齋竹を立軒に奉燈の挑灯と釣り鎮守神輿獅子頭をわたし神樂所をまつらへて神をいさめこの禍を攘ふといへり後にハ次第に長トて大なる車樂を曳渡し伎踊遷物を催して街



高輪浪士亂八

頭をわたす此風俗一般ならず又諸所の神社にも臨時の祭執行せしもこれあり○今年米穀豊饒にして八朔二十日命日和なりれども諸物の價尙貴踊り麻疹其餘の病にて合家枕を並べて臥し活業を休しもまゝありて賤民甚困苦せる故七月上旬より町會所の倉廩を發して市井の貧民へわかたる又有徳の輩よりも施行多し○同朔日曉高輪東禪寺異國人旅館へ浪士亂入暴行あり死傷あり○同十五日山王權現祭禮車樂遷物等例の通催し御城内へも入けるが幕府其外の診覽なり○中旬深川卅三間堂去る卯年地震の時破損に及びしを修復ありて舊觀に復せり○築地西本願寺本堂普請成就す

○七月十五日戌下刻より光物筋を引て坤の方へ飛ぶ車夥し頭上をこなる事甚曉の頃尙盛なり諸人恐怖せり○廿六七日頃彗星乾の方に現き光芒甚微なり○此頃辻斬甚多かりし故夜中の往來更に少く路上おのづから寂莫たり○同廿八日より六十日の間淺草田畝長國寺鷲大明神開帳ありまかれども世上に麻疹暴瀉病等行る、故詣人甚少

○八月以來雨多くて晴天の日稀なり○八月十一日夜五時前麴町三丁目菊一治兵衛といへる紅油の肆より失火して同四丁目五丁目等類焼す長壹丁十間餘幅平均して三十間餘なり○上野と芝の兩山火消を廢せられ出火之節ハ町火消人夫へ

諸大名就國

駈付の役を命せらる○八月下旬より諸侯多く在在所へ趣りたり○品川異國人旅舎追々に成る波戸場成就す○八月より市谷谷町安養寺境内に早竹虎吉輕騎幻技獨樂廻しの芝居興行の深川猿江に水月屋といふ蕎麥屋でさる構の内になる池ありて風趣ありしが七年程にして廢たり

○閏八月六日芝神明宮産子町々臨時祭を催し車樂花万度等出す流行病に烏森稻荷の産子山谷熱田明神市谷八幡宮赤城明神等の産子もこれに同ト此邊賑ひて見物群集す○同月日欠淨瑠璃語常盤津豊後孫死廣尾祥雲寺に葬す

○九月十五日神田明神蔭祭車樂踊臺等を出し十四日より賑はへり

○十月駒込光源寺大觀音堂宇佛像共修復成る○巢鴨駒込千駄木邊菊の造物出来る里見八犬士廿四孝其外なり○同九日夜五時半時西紺屋町河岸通より出火尾張町迄の隣迄焼る

○十一月十四日暮六時過吉原京町壹丁目裏屋より出火して一廓残らず焼亡せり僑居へ七百日の間深川黒江町仲町山本町本所一ツ目みてゆるされたり○同廿六日曉芝金杉壹丁目火事○兩替屋仲間より神田の社前へ岩石を積み石おて刻みし獅子の子落しの作りものを納む

吉原災

浪士軍
異人館

○十二月朔日曉赤坂新町壹丁目より出火同所傳馬田町河岸通舟組屋敷の邊より溜池端同烟又俗に云食傷町迄焼込長五町餘類焼す○同五日大風夕八時青山百人町邊火事○同六日晝四時過西北大風大千住五丁目火事○同廿四日夜大川端小笠原侯屋敷火事○新大橋修覆始る○同十三日品川修殿山異國人の旅館へ浪士集りて夜中炮を放つて焼却せり五ヶ國の内英吉利の分大方に營作成し一時の烟といなりぬ○同月より淺草寺奥山み於て怪談活偶人見せ物出る秋山平郎作せんまい機關竹田縫之助細工なり○駒込光源寺大観音像箱を置改め堂宇の破壊を修復す財主連雀町小田原屋吉右衛門なり○重復

文久三年癸亥

文久錢
通用
幕府上
洛

○正月暖氣雨雪なく去歲より所々の梅開く正月火事少し○同九日夜四時小石川極樂水松平駿州侯下屋敷より出火北風強類焼もあり○同廿五日赤坂黒田侯中屋敷に去る申年の頃より宰府の天満宮を勸請ありしが今日より始て諸人の參詣をゆるさる夫より毎月參詣あり崖に臨み東北の眺望よし梅樹を栽る○二月初旬より櫻花咲く○同月新錢通用始る四文錢文久通實なり○同月十三日幕府上洛診發興ありて六月十六日還興あり東街道陸地通御なり○同十八日より六十日の間雜司谷鬼子母神開帳本堂修復成りしより開帳ありしうと諸人少し○兩國橋西詰にて駱駝を見せものとす天

鎖港談
判

保に渡りしよりちいさし

○三月初旬より横濱に於て異國の使船鎖港の御應接激烈に及はんの由この事に付閭巷の浮説および實否を弁せざりて去る丑年の如く諸人憎怕のこゝろをいたさ者嫗婦幼をして遠蹊の僻地へ去らしめ資財雜具の郊外の親戚知己の許へ預くるとてこれを運送しけるが程なく驢屑の噂も止けれ四月のころより各安堵して本處へ歸れり此間尊卑の家に費す所の金銀いづはかりならむ又棍賊俵白時を得て掠奪せるも多かりしとぞ此節榜人車夫傭夫等の賃錢甚貴かりし○三月より市谷安養寺境内に百日芝居興行す○同十六日暮六時半頃本郷新町屋大根島より出火南西風よて湯島天満宮本社拜殿去年修復なりて壯麗の社にて殊本社の焼別土庫ありしを惜むべし炭燼となりぬ當所に残る門前町屋柳井堂池の端茅町南の方同仲町玄桂屋敷三組町坂の下に加藤侯の向側診すきや町等類焼し夜九時頃鎮る長五町餘幅平均壹町五十間程なり靈雲寺禪祥院根生院等に残る○同廿日曉八時頃藤堂侯向佐久間町二丁目火事半町程焼る○四月新徴組浪士酒井繁之丞殿庄内の附屬に命せらる此頃浪士徘徊して辻斬止む兩國橋畔に其徒の内犯律のよむにて二人の首級をうけて勇威と示せり所々聞評ありて穩ならむ○四月兩國橋西詰にて異國渡來の牝象と見せものとす灰毛

新徴組

九尺計あり三歳○夏中回向院にて百日芝居興行○此頃谷中本行寺境内に幼兒集りて相撲の技を催しけるが次第に長ト後に何方イッパとなく索人の子輻輳して互に贏輸を争ひしりカキマキバ其父母もこれに泥み美麗なる禪襦チンジュを袴へ土俵チノとも築キめたり下谷常在寺本郷真光寺マコウの外所ソトノの寺院壘地等イソあて催しける秋にいたりても猶盛なり但木戸錢機敷代等

飯倉火

○六月鉄炮洲明石町木挽町續氷川屋敷海岸御警衛に付召上らる○同三日南大風今曉八時頃飯倉町續芝永井町代地赤羽明家より出火して飯倉壹丁目より五丁目迄順了寺門前松平中務大輔殿中屋敷仙石侯松平右近將監殿京極佐州侯并旗本衆屋敷十七軒普門院門前大養寺門前神谷町茸手町永井町代地御靈屋熊野掃除屋敷社西久保八幡天德寺向側西久保車坂町同新下谷町其外數ヶ町類焼す武家も多く焼たり虎の門外京極家金毘勘定奉行役屋敷迄焼込夕八時頃鎮る長凡十五町半幅平均三十間程なり○同日夕西丸炎上あり一ヶ此火の飛ぶ所と云り此日の暑威あり○六月九日佛蘭西の船神奈川へ着す○神田三天王祭禮延引八月○同十五日赤坂氷川明神祭神輿のみ渡る○同日山王權現宮祭禮延引八月○同十六日幕府船成るあて洛より還御○同下旬四谷天王祭あり○廿八日兩國橋邊夜店始る花火ハナヒへなし

西丸炎上

幕府還御

納涼の輩少一○同下旬の頃より小石川シノガハ篋筒町裏續切支丹坂茗荷谷町邊市谷月桂寺德運寺の邊樹木茂りし所に雀合戦あり日毎に巨細群り來諸人見物多かりしが七月に至り止む○六月の頃より中澁谷村宮社千代田稻荷社はやり出し日毎に貴賤男女歩を運びしりアキミバ此あたりには酒肆茶店を列ね花を染たる一様の暖簾をかけ諸商人出て賑ひける冬にいたり詣人ヨミや減マたり

○七月十九日異星天漢ツツカの脇に現す其後曇天にて見えす○同月暴瀉病少く行へる死亡の者去年の半より少し○同日より六十日の間深川淨心寺シヨウシンあて甲州身延山祖師七面宮開帳詣人例より

○八月神田天王祭禮神輿旅出あり五日大傳馬町へ七日南傳馬町へ十日小舟町へ出つ歸社ハ例年の日割なり大行燈飾り物等なし○同八日九日淺草寺三社權現祭禮三月とるな車樂伎踊遷物等出て賑へり○同十五日深川八幡宮祭禮車樂五十輛程伎踊遷物等多く出て前年より賑へり○諸物價登揚せる事去年ホまされり

○九月五日曉丑刻馬喰町壹丁目より出火通鹽町通油町横山町村松町若松町邊其外武家屋敷數ヶ所細川侯中屋敷焼込たれ等類焼し明方鎮る長六町餘幅平均して二町十間の餘なり○同七日暖麻布今井谷火事○九月十五日神田明神祭禮執

行なし來々丑年に延る○同廿六日晝四半時頃荏原郡目黒在三田村合樂鉄炮。用品の製所を過つて火を發す其響四五里に聞えたり即死怪瑕の者七十餘人といふ此變にあひしもの身首所を異ふし五跡微塵となりて形を失へるもあり遙隔りたる喬木の枝に片腕のうり居たるを看たるもありしと云

○十月三日曉寅刻赤坂紀の國坂下町屋より出火北風にて火消屋敷迄焼込元赤坂町等都て長二町餘焼る○同十九日曉西の窪天徳寺火本堂假建ふ焼たり

字堀西
本丸炎
上

○十一月十一日曉趨町火○同月字魯西の聘船品川沖へ碇泊し書を呈す○同十五日西の下刻御本丸二の丸炎上亥刻頃鎖火 ○同廿三日晝四時前駿河町三井吳服店より失

火して駿河町室町貳丁目三丁目日本兩替町北輔町品川町同裏河岸本船町小田原町長濱町壹二丁目安針町等焼亡長延二町四十間幅平均して壹丁半程なり○同廿七日曉大千住二丁目より出火同三丁目迄焼る○十一月朔日以来更に雨降らぎ火災

度々あり十二月十七日淺草寺年の市の日たまく雨ふる夫より正月に至るまで雨更になし年内より梅花咲く○猿若町三座芝居顔見せ狂言茶屋なり物なし

再度上
洛

○十二月廿七日今年再度幕府の滄上洛あり翌年六月廿日還御あり○御留守中三座芝居興行と休む○十二月水戸浪人或新徴組と唱へ富家に至り攘夷を名として金銀無心申入るゝもの捕方の儀は御有り○此頃敵潛りと号し紙捻を以て編たる陣

笠又袋物屋にて大き成胴亂毛皮の大巾着商ふ又鉄扇行はる○此頃葡萄鼠といへる染色はやり女子等此色を用ふ○西洋ブリツキを以て製したる雜器を售ふ○西洋書寫真繪等追々行はる○近頃上總國周准郡の内八ヶ村の海岸にロムと唱へし柵を立海苔をとり乾のりに製して江戸其外へ送るもの多し

元治元年甲子 三月朔日改元

○正月三日晝時青山玉窓寺より失火して南大風吹今井谷まで焼る○同日暮六時三味線堀組屋敷火○同六日暮六時頃北本所番場町より出火組屋敷等類焼長壹町餘幅三十間程なり○同九日曉八時過北東風烈しく深川永代寺門前仲町より失火して山本町黒江町蛤町河岸迄燒吉原町娼家の僑居も悉く焼亡及び家明て鎮る長二町餘幅平均して壹町半程なり町中み焼付たり ○去冬十一月十二月雨降らむ正月九日いたり曇り小雪ふり間もなく止む○正月廿六日西中刻吉原江戸町壹丁目娼家大口屋文右衛門宅より出火去年災後あらましお家作なりしが再長燒 ○芝

吉原災

神明宮本社再建成就す内外宮修拜殿故干木の造り様一方の内宮の片損とし一方の外宮の片損の形不作りたり

○二月三日北大風夜に入少と穩なりあるよ夜五時前本銀町四軒屋敷の明家より出火して此火の過ちあらまし恐慮新草屋町本銀町壹丁目貳丁目日本石町壹丁目二

元治甲子

七

大和五條

太草山

丁目十軒店金吹町本革屋町本町壹丁目二丁目本兩替町室町二丁目駿河町品川町北輔町等類焼に及び曉八半時頃鎮る長四町幅平均して二町餘なり白旗いなり社ハ残り○同十一日初午祭大方二の午に延る○近年異國の船舶沿海へ泊してより人心易くらむ宇内の怨屑更に靜る事なく別て去年ハ中國和州等の戦争屢にして其域を阻るといへども寢食と安んぶる事なく然るに浪士跋扈して五月の頃より總州野州常州等の地に蜂起し一揆をなして野州筑波大平山等に楯籠り富商と募りて金策をなし農夫を驅役して惱しければ官府より討手の多勢を向られ數月を経きて鎮制ありたりこれらの顛末ハ一擧の盡る所にあらむ且江城下の事件にあらざればこゝに省けり

改元

瀬戸町

○三月朔日革命の運により年号改元ありて元治元年と成る○同十日より三十日の間谷中延壽寺日荷上人像開帳朝參等多し○同十二日より六十日の間傳通院内福聚院三國傳來三神具足大黒天開帳境内見せ物奉納物等多し參詣群集す○同十日夜五半時築地門跡西の方朽木侯中屋敷より失火して武家屋敷數宇迄軍艦操練所焼門跡地中の寺院又南の方南小田原町南本郷町等焼亡曉に及んで鎮る長三町幅平均して貳町程といふ○同十四日曉八半時南西風強く扇しが瀬戸物町と室町二丁目の間せと物町仕立や平兵衛と室町飛脚や京屋

猿若町火事

○四月十七日夕八時淺草幡隨院火事○同廿二日暮六半時過猿若町三丁目芝居付茶屋筑前屋喜七宅より出火同町一丁目二丁目三丁目三座の芝居南馬道町聖天横町北馬道町淺草寺地中の内十一ヶ寺境内町屋とも類焼長四町餘幅平均して壹町餘なり

○同十五日亥刻過元飯田町魚板橋の西邊旗本石谷氏屋敷より失火外壹軒餘焼○其餘火災屢あり○同廿八日夜子刻西久保天德寺災○淺草寺奥山竹田縫之助イナコシヤにて活偶人看せ物出る懐胎の女腹内を開き懐胎十月の形を見せものに出しけるハ兩國橋手前イナコシヤこれあり十月の形かはらする細工其外偶人の働あり○三月より午天神境内あて百日間芝居興行

○四月十七日夕八時淺草幡隨院火事○同廿二日暮六半時過猿若町三丁目芝居付茶屋筑前屋喜七宅より出火同町一丁目二丁目三丁目三座の芝居南馬道町聖天横町北馬道町淺草寺地中の内十一ヶ寺境内町屋とも類焼長四町餘幅平均して壹町餘なり

元治甲子

八

元治甲子

町四十間なり○同廿三日夕七時過深川元町より出火森下町へ焼込長壹町貳十間程なり

○五月三日明六時過地震強く長一

○六月五日大傳馬町天王旅出の事當年より五年の間休む同七日南傳馬町天王例の通津旅出有り小舟町天王へ廿五日旅出○同十五日山王權現祭禮神輿行列のみ恒例の道筋を渡り奉り産子の町々より車樂遷物等へ出させよつて夕八時頃本社へ還輿あり○同廿日幕府御船にて京師より還御あり○湯島天満宮災後本社計り建つ廿三日夜正遷宮廿七日祭禮執行あり

○七月廿六夜待高輪品川湯島大川道其外更に人なし

○八月六日夜十刻芝三島町糸屋庄助の家より失火して神明門前三島町宇田川町同横町七軒町神明町濱松町壹丁目板倉屋敷へ焼込長四町餘幅平均して廿間計なり神明宮恙なし神主ト泉氏西東氏焼たり○同九日夜前より雨夜明より大風雨南風扇さ後西北風に替り屋上塀牆等大破お及ぶ所多し○同十四日十五日雨良夜看月空し夫より雨おけく彼岸中も晴天一日なり○同月八日より毛利大膳太夫殿櫻田の上屋敷麻布籠土の中屋敷とも家作取崩すべき由人夫に命せられ町火消の人足も出たり大勢撤却に

及び一處九日朝より風雨烈しく上屋敷の鎮守稻荷祠へりり頃俄お猛風吹起りければ諸人甚恐怖せり北の方なる稻荷祠の後に奇石あり殺生石と噂ありける由地下に埋れし事其限りを知らざとそこの石に觸るゝもの無き爲にとて垣を結びあり上屋敷屋宇へ去年破壊し礎石さへあらざ邸中鳥有となれり籠土の方の屋宇を排ね倉庫へ廿餘宇あり玄關より奥殿にいたる迄壯麗の營作なれど二三年このうた住居もなく庭中の亂草迷離と瘞れたり僧木やいさどよばるゝ所の檜の巨樹後の方外構へに添たる所に列り立り邸中喬木多し谷に池あり葦薺生トたる古池とゑらる豊太閤より給はりといふ石燈籠あり笠へ五尺餘りもあるべし世俗雪看形と唱る物の類なり天満宮稻荷社あり又寺院あり本堂五間四面なり惜むべし右建物一日の内お悉く墮て廣原となれり奥殿を毀ける時大なる蝙蝠飛去たり傳へて云この室内へ人數の入るに半の數にて入る時必ず怪異あり依て丁の數にて入る事になれりと云傳ふる由なり○八月の大の月三月續し中の月故十七日十八日芝金地院觀世音開帳あり

○九月暖氣にて單衣を着し笠日傘等を用ふる人多し

○十月御上洛の濟せられし祝儀として江戸町人一統へ六万三千兩の金子を賜は

る竈の數に頗ち大家となく小家となく一軒に錢三貫百三十九文なり○同日湯
 島天滿宮祭禮車樂伎踊遷物等出て前日より賑へり本郷眞光寺天滿宮も同日祭禮
 を執行し車樂踊等催せりまゝるに十日夜本所柳島邊の火事にて火消の人夫行違
 ひ往來殊の外混雜せり○同二十三日曉七時前本所吉岡町火事清水町古錢座燒る
 長一町幅廿二間程なり此火事の過ちみあら
 せ放火のよしなり○此頃辻斬の噂止て世上静なり
 ○十一月酉の日下谷坂本町二丁目要傳寺巢鴨靈感院殿が橋本迹寺ホシヤ
 華宗なり等にて
 酉の祭始りこれより年々詣人多し竹把芋頭
 等を售ふ○同廿三日吉原揚屋町小火
 ○十二月十四日風曉牛込揚場町河岸通町屋燒る壹丁程なり○同十五日浮世繪師二
 世歌川豊國トヨクニ死七十九歳元祖豊國の門人あして始一雄齋園貞と号し又五波亭香蝶
 樓梅戸など稱し通稱の角田庄藏といふ文化より六十年來世に行れた
 り龜戸光明○同十九日麻布櫻田町火事○本所伊豫橋永井辰中屋敷示教稻荷社參
 詣をゆるさる次第に繁昌して諸願をりくるもの多し近頃靈告ありて
 土中を穿ちて得られし像
 といふ○能役者先代寶生太夫綱彌
 五郎薙髮して紫雪と号し賀州へ趣き彼地に住ける
 が今年彼地お死す息日い失せり筋違橋あて
 勤進能興行せし人なり○高田感通寺境内お此頃小祠を營み
 て筆硯大明神と号し筆道の守護神と稱へて毎月朔日十九日を祭日とし小兒をし
 て詣しめける何の神にや知らせ年ならせいで廢せり

慶應元年乙丑 五月閏四月十八日改元

○去冬より暖氣にて雨少く雪更になし早春雨多く降り火災少し○正月十一日狂歌
 師梅の屋秣翁死六十二歳稱吉田佐吉一號鶴壽神田佐久間町住辭
 世爪づくくさいと此世の暇乞ひま行駒の送り狼○同月淺草寺奥
 山に於て秋山平十郎作にて十二支に因ある活偶人の見せ物出る
 ○二月より回向院境内お於て百日芝居興行
 ○三月廿日京都より東門跡御下向あり淺草本願寺へ着せらる日光山御神忌ふ
 よつてなりとぞ○同
 十八日淺草三社權現祭禮町より車樂遷物多く出る前日雨ふり當日
 は半日雨降る
 ○四月四日曉七時神田明神下御臺所町續武家地吉田某宅より出火坂上へ燒上り吳
 服店澤の井の側神田社前に近き町屋湯島壹丁目の河岸迄燒夜明鎮り雨降る○同
 十七日日光山御神忌二百五十年の
 御忌辰なり 諸侯代參あり
 ○五月八日より三十日の間高田本松寺願滿祖師開帳○同廿二日夜四時過霞ヶ關の
 下阿部彦屋敷より出火柳澤侯太田侯等類燒あり○同月末より閏月に至り雨多し
 ○閏五月十八日曉田安侯診館火事○同廿八日より兩國橋邊花火等當年これなし○
 去年より米穀薪炭酒味噌油絹布之類其餘諸物の價次第お登揚し菜蔬魚類にいた
 る迄其價甚貴し

○六月十五日赤坂氷川明神祭禮神輿のみと渡す○同日夜風雨烈しく明方彌強く深川邊高潮漲りて低き所床の上へ五尺計り水乗る近在村々洪水溢濫す溺死の者多し○同二十三日夜雨強く降り雷霆あり神田川の邊柳原本所松倉町淺草三好町等へ落る○同二十八日より六十日の間本所回向院境内に於て奥州金花山大金寺の本尊自然木八臂辨財天開帳あり日々曉より參詣の男女諸方より群り振鈴擊鉦を廢して跳踊絃歌を催し又大なる行燈を造り上ハ色ノつくり燈火を點トこれを荷ひて門前につどへり朝毎に此蕃昌のありしと素より浮氣の俗人郷鄰に傲へるのみにして信心にあらざれば此黨の更なり格別の群集もなかりし故香花の甚薄りしよつて閉龕の後歸國延引關帳中寺内ハ大なる假屋と稱暨びしとなむ渡邊捨次郎といふ者曲馬の藝をなす見物多しその外力持怪○同月末より駒込より白山の邊より毎夕八時頃より雀合戦あり數方の雀群りし見物の諸人日毎に集ひ見物しけるよしなり

○七月中卅日間三田臺町藥王寺祖師開帳○米價諸色高直に付同月より町會所に於て市中の貧民へ救済の米錢を頒ち與へらる○秋淺草報恩寺本堂再建成

○八月十四日夜淺草堀田原火車三島門前町屋大岡侯長屋へ焼込○同十五日夜晴天月清光と見る珍らしき事なり十四日ハ○芝泉岳寺門前同寺持境内千六百七十餘坪の壘地へ異國人接遇所を建らる町屋の内六百坪程ヲ所取拂○王子村飛鳥山下と堀割り大川より船を運せしめられ又飛鳥山の下に反射爐ハシヤコノミヤを建築あり

○九月十日より十日の間猿蓑町壹丁目中村勘三郎が芝居狂言興行す去年六十一るを延し年目ハ當○同月十五日神田明神祭禮本社に假の祭典のみふして神輿も恒例の執行なし幕府の進發留守故なり然るに産子町々の内作事の職人其餘遊俠の黨トモカフヒツカに議して車樂數輛伎踊遊物等を催し十四日より町々を渡り十五日に筋違橋邊門の内に揃ひて茶の水道より本郷通り本社の前を曳渡りければ本社の賑ひ見物の羣集を立べき所なかりし然るに官府より沙汰ありて各費贖錢を命せられたり

○十一月廿一日夜大風橋場町より出火貳町餘燒拍川口某ガ○同廿二日夕八時過北風強く小石川櫻木町續々助方組屋敷より出火二町計燒失○今年より雜司谷鬼子母神境内鷺明神へ十一月酉の日酉の祭として詣る事始る是より年々賑はへり

○十二月三日夜四時淺草材木町河岸火車○同十二日夜四半時でろ淺草田原町壹丁目より失火北大風西の門跡裏門前町屋高原屋敷少く燒込東仲町に家々より多くの財寶を積置し火燃うつりて淺草寺風雷神門并左右兩側の寺院燒る二王門よ

慶應乙丑
十一
十一

り内の恙なく花川戸町角古物六地藏の石燈籠焼て聊缺損たり花川戸町茶屋町並木町諏訪町黒船町焼け駒形堂の残る此火遠く南本所へ飛で長崎町三笠町長岡町并この邊武家地組屋敷又本所十六軒屋敷後の方焼深川江の邊大島村邊所々飛火にて焼たり十三日晝九時頃漸鎮る淺草の邊計り凡八町に六町程焼たり○同廿日六時六時下谷長者町壹丁目東の方より出火松下町代地前武家地少く焼込○冬雪更おなほ雨少く○冬より春へ掛倫盜多し○今年思辰舊人谷口月窓卒九一歳名世達號孟傳痴庵勢州山田寂庵寺の月僧老師の門人ふして善く師の習れし人物の骨格山水等の風趣をうつしけり人なり伊勢の産にして壯歳の時江戸へ下れり晩年薩州侯の芝邸に○諸家の銃隊訓練次第に盛にして隊伍をなす諸方の訓練場に至る各西洋風の太鼓を鳴らして羣行せり○大坂の淨瑠璃語竹本對馬太夫江戸に下れり諸人競ふて聽聞す

慶應二年丙寅

○正月元日晴天晝九時頃四谷傳馬町二丁目より出火して風もあらざり一ヶ延焼お及び四谷通り三町餘幅壹町ほど組屋敷へも焼込たり正月より淺草山見物秋山平十郎は人形竹田縫之助○十日風雨明六時頃霞が關火事○去冬より雪更に降らざ

○三月九日大風雨止て後夜中神田丸軒町鉄炮臺師大塚某宅より出火小泉町松枝町松下町代地少しや武家地も類焼あり長壹町半餘幅平均して三十五間なり○南傳馬町三丁目東の横町お住る救火傭夫の頭と唱へし金太郎山火消せ組の齋頭なりといふ者近頃世に行る、寄場といふを開き家號を佐の松と稱へ間口十一間半奥行九間餘舞臺四間餘三方二階棧敷を構へたり歌舞妓狂言を催し俳優の少年の男子にて十七八才より十二才を限とし又年わかき女子もぞり各無言にして淨瑠璃語の詞により口を動し物いふさまして藝となす世に縛名して活偶人と云ふ江戸第一の大寄と稱して見物日毎に群集しけるが制度に觸る事ありて三月の末興行を停られ罪科に處せられたり俳少年の駒雀玉子駒次郎○淺草の藏前へ活人形見せ物出る膝栗毛彌二北八の人形亦遊女浴湯裸の姿を見する

○四月朔日夜四時芝濱松町壹丁目炭薪屋龜吉宅より失火して神明門前七軒町神明町三島町宇田川町同横町柴井町露月町源助町牧野侯小遠山侯同植田侯屋敷類焼翌二日明方鎮る長延六町餘幅平均して五十六間餘なり神明宮の鳥居笠木燒落て怪我人あり○同四日夜四時神田富松町元地火事佐久間町四丁目裏町へ焼込○同十日曉丑下刻筋違橋門内阿部侯屋敷より出火旗本衆やしき○同十五日曉

貳朱金引換

小石川槍筒町出火武家地とも壹町計り焼たり○四月涼氣にて諸人絮衣を着す病者多し○貳朱金引換始る○猿若町なる操芝居座元薩摩吉右衛門ハ筋違橋外講武所付町屋敷加賀原の跡なり同結城孫三郎ハ米澤町へ芝居を移し興行を免されて四月十五日より始めてその所に於て操芝居興行す茶屋も軒を並べて數軒出來見物群集しけるが願て衰へしうバ秋の頃より興行を○四月十五日より小石川白山權現社内に於て百日芝居興行○近き頃より辨當屋といふ者行厨に比して調理しはやり出しけるが次第に行れ商ふ家數軒に及へり

貧民亂暴

○五月より炮術行軍等の調練に西洋の笛を用ふる事始る又調練場へ趣く途中に笛太鼓を用ふる事を停らる○同月より兩國橋の東詰に於て西洋傳米木匠の器械を見せ物とす多くの車を以板を挽割或ハ雜様等なして穴を穿つ○近年續て諸物の價沸騰し今茲ハ別て米穀不登にして其價貴踊し五六月のころよりハ小賣百文ハ付て一合五夕に換へたり八九月の頃ハ至りてハ一合一夕位に及べり如此く登踊して賤民の困苦いふばかりなり五月廿八日の夜五時頃何ものとも知らず南品川嶽町稻荷祠の太鼓と取出し同所本覺寺の境内にいたり打鳴らしければ何方よりハ雜人多く集ひ來り夫より群行して南品川馬場町油屋某が宅を破却し南品川宿

北品川歩行新宿東海寺門前の町屋を打毀す事凡四十軒程即時に散りて行方を知らざり夫よりしてハ狼狽の輩諸方に蜂起して日夜に群行し本芝同田町金杉町芝西應寺町濱松町中門前等に及し六月二日ハ新和泉町四谷邊鰯河橋麻布本村等の町屋を壞てり又三日にハ堀留町牛込中里町早稲田町馬場下町鎌倉横町赤坂田町新町の邊四日にハ本所茅場町四谷傳馬町五日にハ本所緑町に及べりこの内幼弱の少年も立交りて飛鳥の如く駈廻りてとものにこぼちける由なり天明の打こわ子先立したり何方より來て何方へ歸るといふ事を知らず不思議の事といひあへりかゝる狼藉に及びりてまたく飢餓し追りて事故六月中ハ町會所より貧民救として一人分錢壹貫百文宛を頒ち與へられ九月初旬にハ百文に付二合五夕の浮拂米これあるべしとて坊間へ張札を以て徇られし其公驗行渡らざ此米ハ賤民の内ハあもわけて貧窶窮迫の者にわらちて飢餓を救ふべしとありしが此撰に洩たるを羨且憤りて九月十日の頃よりハ本所大島町邊の貧民急卒に大路に轆り富商の家又ハ米屋味噌屋炭薪屋等の門邊にイで救施を求む大釜を押して借受押借の米を焚て是を饗ふ是よりや始りけむ深川猿江のあたり松代町本所松倉町邊其餘追々諸方に屯集し本所法恩寺の境内に集り卒塔婆を折て薪とし米を焚て夜を

紙工部長卷十一 慶應丙寅 十三 戊辰 戊辰

明せり寺主も始の程の程に諭し軟言けるが餘りの放逸に困ト果されバとて巨多
 の人數よして達晨に暨び捨置べりらされバ止事を得せ寺社奉行所町迄奉行所へ
 訴へ申けるにより人數を向られて即時に追擺はるるれども猶他所の市店も追
 り武家へも趣きて扶助を募る本所細川家への最寄の町々へ百金を給ひ津輕家へ
 へ表門へ押寄せし族を制せられしより更に不肯お依て空炮を放ちて追退けられ
 たり十五日頃淺草邊橋場今戸に及ぼし淺草寺弁天山橋場法源寺總泉寺お集り富
 商の施財を催促す深川靈巖寺へも集りし由なり十七日に中の郷南割下水下谷
 坂本其外所々に羣り大路に駢闐せり依て商家の戸扉を鎖して聲どもたてて十八
 日下谷龍泉寺町の族大恩寺お集り谷中天王寺へも羣れり和泉橋北廣小路下谷稻
 荷社内へも屯しける十八日の上野大師の縁日にて詣る人もありけるが異國人此
 邊を通りくりりけるを羣集の貧民大聲を擧て罵詈礫を打てやまされバ異國人恐
 れて逃延たり十八日夜より神田町の賤民も道路に屯集して前同様の所行有
 春米屋も怖れて戸を閉家業を休しかば諸人彌迷惑せり○九月神田佐久間町の河
 岸へ貧民の假屋を建られて扶育せられ又同廿一日より五个の寺院に於て焚
 出の修救始りしかど更に間にあはせ未明より其所に集り與へられたり五ヶの

寺院の本所回向院谷中天王寺大塚護國寺澁谷長谷寺三田功運寺等なり富饒の輩
 へ此節賤民の狼戾を憤る有と暴行を厭ひ各米錢を嚙す事夥し猿若町三座の芝居
 興行と停む遊里に趣くもの更になく妓家貸食舗等の寂莫たる想像すべし

○六月日々曇りて雨多し○神田村地三天王迄旅出なり○同七日より別隊組の輩日
 夜巡邏始る市中に四ヶ所の詰場を設らる○同十五日山王權現祭禮執行なり○水
 戸鐵錢通用始る四文錢なり○同廿日より六十日の間本所回向院に於て三河國勝
 鬘皇寺聖德太子像開帳あり境内見せ物曲馬力持活人形笑話家肖像牛苦丸
 僧正坊天狗熊坂長範等なり細工人淡野當久平 ○芝金
 杉圓珠寺境内百日芝居興行

○七月十七日より三十日の間山谷正法寺毘沙門天開帳朝まるとり多し○同廿九日曉
 橋本町四丁目火事北風にて長貳町半餘幅五十間計り焼亡せり

○八月三日定火消役屋敷當時八ヶ所の處四ヶ所赤坂市谷九段
 坂上湯茶の水を廢せられ四ヶ所
 に成る駿河臺廻町冶容洲河岸靈南坂等なり○同六日朝七日終日大雨夜に入大風
 雨あて大川出水○彼岸中雨多し○同十六日月蝕皆既五時より九時過迄なり○同
 十九日英吉利人四人内男二人
 女二人王子村の邊へ遊歴して谷中の粉團墜を過ける時
 鳥合の貧民紙幟を立富家へ至り囑施を乞ふの爲弊衣を着しあらぬさまして羣行

英人遭難

江戸年表第十一
幕府他
正軍役改

しけるを見て笑ひけるを濫行不軌の族これを憤り衆口等しく罵りて磔と打一よ
り次第の人数増て散動し手々に瓦礫を抛ける別隊組の士もこれに副て護送せら
れけれども多勢に辟易して制する事あたはき馬とはやめて馳られれども追々に人
數重りあひしを段々に逃のびて淺草寺門前より淺藏前を経てより彌混駈し別隊
組の輩の猿屋町の會所淺藏等へ逃入しりと屋上より尙石瓦を投る事始に倍して
面部其外へ疵をかふむり血に染て終に川中に踊入東岸本所より忍び歸られしも
ありとぞ又異國の男女の始車に乗けるが此騒動により生る心地なく車を奔徒跳
にて走り辛ふして逃のび夜に入て旅館へ歸りけるよしなり○同二十日京師に於
て幕府他界あり○八月の頃より淺草淺藏前に場と張りて天神小僧となづけた
る男兒出て文字の曲筆をなす生年七歳桶川宿の生れといへり容貌もみみくから
き姓名の聞きざりし逆筆左文字或の手中をもて頭へ筆を結つけ又の臂へはさみて
書す見物の好みより真草逆筆等自在に書す奇といふべし○此軍役改正炮術次
第に淺催促あり小筒の隊を立られ筒袖陣羽織股引を用らる又八月より町人受
負にて歩兵數多召抱へらる○今年獨樂廻し輕透技幻等の藝術をもて亞墨利加人
お備れ彼國へ趣きしもの姓名左の如し是は當春横濱に於て銘々其技藝を施しけ
るが亞米利加のペンクツといふ者の懇望により當九月より來る辰年十月迄二年
の間と約し備れけるよしなり

△獨樂廻 淺草田原町三丁目松井源水妻はな娘みつ同さき倅國太郎七歳

△幻戲 北本所荒井町柳川蝶十郎神田相生町隅田川浪五郎妻小まん

△輕透繩 巨右浪五郎倅登和吉三味線右浪五郎妹とら△手妻同居浪七

△こま廻し 淺草龍寶寺門前松井菊二郎娘つね八歳中へ入同居人松五郎

△獅子の曲 世に云角兵衛獅子の曲なり 同居人梅吉松十

△曲持足藝 吉原京町二丁目濱碇事定吉 右上乘養子長吉同居梅吉後見小石川

白壁町市太郎 上乘龍之助南傳馬町一丁目吉兵衛倅兼吉笛吹小石川上富坂町

林藏 太鼓打妻戀町繁松等なり

藝の目錄左の如し

○幻戲の分△三番叟揉消木偶 後に替り二問四面の幕み成 △乙姫偶人 後み替り龍燈ふ成火を点す

△唐兒人形 後替り頭一尺五寸のだるまみ成 △扁頭木偶 俗に云福助後み替り高五尺の三平二満女み成

△舞樂の木偶 後み替り花車高二尺 △ゼンマイ機關師 後み替り花車高二尺 △ゼンマイからくり鶏卵比翼

りへし△大和駕籠小鳥の娶入△千壽万壽の玉水からくり△淀川簾水からくり

江戸年表第十一
慶應丙寅
十五

り△二重花臺水からくり△天地八聲蒸籠△四ツ綱石橋獅子の狂ひ△平障子
崩れ亘り△平綱亘り△蝶の曲蝶の造物を色々ふもたらせ未お真の蝶をはなつ

○足藝曲持の分

△三挺階子曲乗の藝△大幟曲持上乘の藝△崩れ階子上乗藝△一本竹上乘藝
△大半切桶曲持△石臺曲乗藝△大水瓶曲持藝△大階子同△崩れ居風呂桶同
△柳樽同右何れも上お小兒を乗する△數の小桶上乘藝但しはね虫と云

○獨樂の分

△大おま一ツ一尺八寸目方 五貫五百目△麻の紐一本目方一貫 七百目△一尺こま一ツ目方廿八目
△一尺四方箱四時繪△万度四方開き中より牡丹の造 物出る堅二尺横一尺五寸△羽子板曲こま
△石橋渡り階子丈四尺 二尺四方△大こま二ツお割れ内より娘つ ね出て踊る但三尺五寸△天神宮但あて
△浦島木偶但珊瑚樹亘り 立五尺横四尺△諫鼓尺四方開き長七 尺横五寸四方△籠拔こま 横四間半 堅一尺
△時計一丈七尺横 八尺五寸△富突木偶せんま 仕掛△おだんおま五六寸 五分△灯挑おま一尺 小田
原ちやうちん お成火を点す△數のこま三十五 刀こまの刃 わたり

○九月十二日明六時前淺草森田町火事片町へ焼込一町半程なり放火する所といふ○此頃懐
中の烟管お短きを用ふるが故これをも傳ふ家多し長さ四寸五寸位なり

○十月朔日曉淺草寺隨神門の前覺善院より失火して馬道山の宿花川戸町迄燒る若
残る凡守町半計なり○同廿二日夜湯島天満宮石坂下町屋火事餘燒○同廿八日夜
四時過小川町裏神保小路半町餘燒亡○同廿九日曉丑刻永田馬場山王門前より出
火武家地壹町程類燒す同夜數ヶ所お災あり○同十二日の後十一月に至り更に雨
降らぬ火災度々あり十二月二日五日目にて雨降る同月末より猿若町三丁目守
田勘彌が芝居にて大仕うけ土間の真中より橋をせり上る

○十一月三日未下刻敵が橋南町より出火して紀州侯邸へ焼込たり○同月武家方武
藝調練衣類の修制度を定らる筒袖衣類陣羽織陣股引等用らる其餘の事す

○同月常盤橋門内に遊撃隊當番所を建らる○同四日夜四時過深川熊井町の油
屋あさ宅より失火して相川町中島町蛤町の邊黒江町仲町永代寺八幡宮の側迄燒
る吉原町娼家の僑居も殘れる無一曉七時頃にいたり鎮る長四町五十間幅四町
程なり○三芝居顔見せ狂言興行な一茶屋筋り物もなし○米價百文に付一合一夕
位にゆるなり○同六日巳刻芝口三丁目西側より出火源助町へ焼込東側の殘る
長壹町餘燒亡○同九日夜子半刻元乗物町の裏家に獨住して日備お出る新兵衛と
いふ獨身男沈酔して火を過ちてより同町の更なり北風にて燒ひろがり新葺屋間

遊撃隊

元乗物
即大火

徳川御紀 卷十一 慶應丙寅

十六 我白利我書屋

新銀町蠟燭町關口町横大工町永富町皆川町一團堅大工町上白壁町三河町一丁目
 二丁目三丁目三丁目の方計旗本衆四軒養安院屋舖鎌倉町龍閑町四軒屋敷松下町塗師
 町新石町一丁目鍛冶町一丁目二丁目四側本銀町一丁目二丁目本石町一丁目本町
 一丁目右二丁本革屋町本兩替町北精町品川町室町西側一石橋燒落西河岸町通一
 丁目右二丁より四丁目迄西河岸町青物町万町吳服町元大工町元四日市町僧物町上榎町
 數寄屋町北榎町左内町平松町音羽町小松町川瀬石町南油町新右衛門町樽正町箔
 屋町岩倉町下榎町福島町本材木町一丁目より八丁目迄中橋廣小路町南傳馬町一
 丁目より三丁目迄大鋸町南榎町富榎町榎木町南塗師町南鞘町桶町二町南鍛冶町
二町南大工町五郎兵衛町北紺屋町疊町白魚屋敷泉橋半分竹河岸油中の橋燒落松
 川町二町鈴木町因幡町常盤町具足町柳町炭町本八丁堀五町八町堀南北町奉行衆
 與力同心組屋敷大半燒岡崎町松屋町永島町長澤町幸町日比谷町八町堀金六町同
 水谷町二町南八丁堀一丁目より五丁目迄代地井龜島町本港町船松町二町竹島町
 其餘町數合百五拾三町なり諸侯一の本多侯細川侯中屋敷井伊侯同平越州侯朽木
 侯松平阿州侯中屋敷松平遠州侯土井侯中奥平侯中松平相州侯中川侯中細川若州侯
 その外此邊旗本衆三軒佃島石川島鉄炮洲炮臺寺院の國圓寺社の伊雜太神宮白旗

吉原火事

稻荷社金葛稻荷社本原鉄炮洲稻荷社其外小祠多し長延廿一町餘幅平均して七町
 餘の類燒なり十日晝時過ぎ京橋手廻りて鎮れり燒死怪瑕人多く倉庫の燒落たる
 の數を知らず災後諸材木工匠傭夫の價次第に登貴せり○同十一日明六時過ぎ吉
 原江戸町壹丁目娼家大榎屋いちが家より火出て西北風にて同二丁目揚屋町京町
 壹丁目二丁目角町へ燒込構への非人頭圍の内へ飛火して長三町餘幅平均一町
 四十間程燒失し晝四時頃鎮る娼家の僑居カガクへ深川永代寺門前同仲町山本町黒江町
 等にて二年の間免されたり○今年も大の月三月續の處十一月の中の月にて十七
 日十八日芝金地院觀世音開帳あり○同晦日曉八時淺草元鳥越火事一町半幅五十
 間程燒甚内橋の南やけて鳥越の社についぐなし○近頃強盜甚多く次第に跋扈して富家へ押入金銀資
 財を掠奪すこれによつては旗本衆其餘諸隊に命トて街衢巡邏せしめらる○冬あ
 至り官許を得せ私に企たて刺牌の戲ヒツカを催すもの所々にあり世小いふ富牛島蓮華
 寺萱場町藥師堂四日市翁稻荷淺草幡隨院根岸時雨シメツ岡の松不動堂の邊等に於て
 堂宇修理等を名として此事を催せり時雨ヶ丘チカあての興行の時寺社奉行より捕
 捉の小吏急卒に茲に向ひ群集の男女を押分て場主を捕へられたりこれ驚き燒
 倂觀カシキの小人各逃去らんとして過て畝中アヒツに宛轉落て泥土に塗れ或は巷に立ち商

巡邏隊

菊橋
石橋

人々鐘子の類を覆し熱湯激りて灼傷になやみと族もありて其混雜いふはかりな
しとぞ各興行日の前後のあれど其他の場所もこの趣なるべし頓てその催主一同
禁固せられ嚴科に處せられけるとぞ○淺草寺町菊屋橋を石橋の造り改む
○十二月十七日上野の宮回廊而已焼失す○同十七日十八日淺草寺年の市詣人少し
○同廿六日不忍池辨財天祠修復成りて今日遷宮あり○同廿七日曉北大風寅刻北
品川歩竹新宿錢湯の家より出火して南品川まで旅舎の大厦大抵焼亡す長九町半
程なり○同廿九日夜亥刻過本郷春木町二丁目より出火北風烈しく同町三丁目武
家地組屋敷近藤登之助殿屋敷加州侯南長屋の向迄焼け本郷三丁目より一丁目迄
湯島四丁目圓満寺新町屋坂の上り口迄藤堂兼之丞殿屋敷西の本郷元町竹町の邊
の小人の中間組屋敷三念寺邊立花雲州侯屋敷等焼る此火川を越て駿河臺なる太
田姫稻荷社のみ焼たり靈雲寺眞光寺麟祥院聖堂等々恙なかりし聖堂脇の學問所
の北の方聊焼込たり長凡五町餘幅平均して貳町四十間程なり○同時少し後れて
小石川白山前妙清寺門前の風呂屋より失火して淨心寺同門前町屋常檢寺大圓寺
門前指が谷町圓乗寺駒込片町先隊組屋敷より失火して阿部侯下屋敷焼込其餘
武家地多く焼亡せり九軒屋敷の邊にて鎮る長さ十一町幅平均壹町半程なり○冬

牛肉店
西洋物
商
濁酒
行

雪更に降らぎ○牛を屠りて羹とし商ふ家所々に出来たり又西洋料理と号する貨
食舗所々に出来て家作西洋の風を模擬せるものあり○西洋絹布毛氈の類諸器物
等商ふ店次第に増たり○此頃濁酒世に行れ中汲と稱へこれと醸して商ふ家次第
に殖たり價の賤いさともて下賤の飲ものとなれるや研北雜志に席談謂人曰
貧者以酒爲衣といへるもけにさる事と覺ゆ濁酒一に濁醪黃陪單隣をいへり永
正十三年御選謎合せに 十里の道をさけ歸るに酒また澤庵和尚へ濁り酒と
贈るとして十里酒と銘を書たり一くハ、十里といへるこゝろやすみ
がたき世お身をまほり酒庵 ○菖蒲屋和佐之介と名のれる女太夫諸流の淨瑠璃語
り分と号しはやり小唄をさへ取交へて諸所の寄せ場へ出て行れたり内藤新宿茶
店の娘なるよし

慶應三年丁卯

○正月元日晴天舊冬月末の火災により年禮に出る輩太神樂鳥追等街に少し春にな
りても火災度々あり○同二日夜酉刻細雨中辰の口松平内藏頭殿屋敷火事千組の
驚の者武家方八敷と喧嘩ふ及べり ○同四日駿河臺鈴木町火事○同五日より惊開によつて鳴物
停止あり依て早春世上静みして寂寥たり○正月雨少く日々烈風扇く○去年冬よ

り諸物價彌まゝ貴し○同七日夜亥下刻橋場總泉寺より出火本堂僧坊燒西北風烈くして大川を越牛島小梅村へ飛で民家數軒燒たり○同八日明方濱町土屋疾屋敷より出火○同十三日夕八時頃より初雪降積る十七日又雪

○二月日烈風○十日初午稻荷祭世上一統執行なり三月末又四月に執行ふ○正月半より閭巷の談に壬子村邊里の寡婦痘疹の爲に幼兒を喪ひ愛着の餘り狂を發し其兒の肉を食てより鬼女となり其邊境へ更なり江戸市中をも徘徊し夜毎に家の小兒を啖ふといふ事一般に云ふらしけるが固より無根の妄譚なればやがて其噂やみたり○同十五日曉丑刻麻布雜式坂下町綿打職金五郎の家より失火して宮下町新網町代地十番やけ込永坂町光照寺門前飯倉新町其外武家地等燒る長二町四十間幅平均五十三間程なり明方に至り鎮る

○三月朔日より諸役人繼上下と用ひを袴外套着川すべき旨を令せらる○同四日雪○同九日雷雨○同十日夕七時小網町二丁目肴屋より出火三丁目類燒○同十四日曉千住中村町より出火小柄原町旅舎過半燒て箕の輪町北方へ燒込○同廿三日曉丑刻淺草芽町二丁目より失火して同三丁目福井町一丁目二町目上平右衛門町猿屋町天王町同代地瓦町改正會所芝掃除屋敷代地蔵付床見せ書替所屋敷松平伊賀守殿中屋敷本多彦中やいさ池田彦同大圓寺牛頭天王社十王堂花徳院閻魔堂天王橋等燒るゑんま堂の普請なり長四町餘幅平均して五十間程なり夜明て鎮る蔵前第六天社の恙なし○同廿五日亥刻本所相生町一町目より出火松坂町燒大徳院にて止る○春より回向院境内西久保普門院境内にて百日芝居興行

南京米

○四月廿七日淺草寺觀音堂修復に付本尊を念佛堂へ移しまいらす同奥山秋山平十郎作の活人形竹田縫之助が細工見せもの出たれど此度の見物少し○去年より南京米多く入津○春より強盜多し○同月より芝金杉圓珠寺境内百日芝居興行○四月冷氣の日多し

○五月八日曉惣十郎町より出火内山町瀧山町竹川町守山町等類燒長一町半幅五十間程なり○幸橋門外三上快庵拜領地續き典藥頭中山攝津守殿拜領町屋敷小成中山屋敷といふ○同十二日淺草橋場町元家持與惣二家衰へ土庫を毀しけるに土より元字金九百兩を掘出せり四代以前のあるトゞ埋置し所なる由○同八日より六十日の間牛込原町圓福寺に於て中山法華經寺鬼子母神開帳○同十九日より外神田操芝居興行間もなく止む○文字鎌の童謡行はる○下賤の婦女簪二本をつらねて頭へさすものありめをどさといふ○此頃西洋の傘を用ふる人多し和俗

蝙蝠傘といふ但し晴雨ともに用ふるなり始ハ武家にて多く用ひ一々翌年よりハ一般に用ふる事になり

○六月初旬冷氣催し諸人裕衣を着ず風邪熱病行はる○六七月旱天井水○同月神田三天王彦旅出なし○赤坂氷川明神祭禮神輿出ず○同月一石橋災後修復成る○中旬より八月へかけ雨少し○同月活偶人細工イコンヤ名ありし秋山平十郎卒○兩國橋畔納涼殊に賑し花火ハ當年○同月より上野山内締切雜人の入を止らる

○七月寺社彦奉行所一ヶ所に成る土屋侯の○同月四宿の關門を廢せらる○廿五日麩芝切通間部彦屋敷出火町屋少々類焼

○八月廿三日より彼岸に八七日の間日々雨降り六あみだ參札所觀音參等甚少し○九月一ッ橋彦門外明地に異國人傳習所を建られ營作成る○同月暖氣にして單衣着する人多し○同月末歩兵多人數彦暇給はりより諸所に於て亂妨狼籍の所行あり○缺炮洲海岸築地船松町二丁目十軒町續彦軍艦操練所の跡へ異國人の旅館を建られ且貿易の所とせらる蟹ホテ翌年夏の頃より大抵成就し大厦覺を列ね丹漆黥聖を以て裝飾す其中央なる樓上の突凡たる海岸に着しく茲に登れば西に江城の巍々たる遠ハ富嶽函嶺を瞻仰し南に芝浦より品川迄長汀曲浦の風趣を望み東南ハ海面にして遙に房總の群山波上に汎び衆船の來往ハ眼下に遮り

に筑波二荒の高岳空に聳ゆ近くハ轂下侯伯の臺榭市店の鱗差も一瞬のうちハ有て頗佳景の所なり後の方苑林あり芝をふせ花木を栽て所々に小亭を設けた北り此所も海上の眺望尤よろし○同月より葡萄牙ホルトガ字漏生フルユス瑞西イモキ白耳義ヘキイ伊太里イタリ丁抹等の國々に條約を定らる○同月の頃より淺草坂立花彦下屋敷鎮守太郎稻荷社へ參詣群集する事始れり此社ハ享和の頃より參詣群集しけるが文化三年の春より廢れ今年又俄ハ繁昌し此邊新堀と唱へ溝の兩側へ茶店食舖等建つらね櫻の稚木を栽並ぶる事一町程なり石の鳥居石燈籠挑灯幟幕等夥しく奉納し日々參詣して神符を乞受け靈驗と仰く人多りりしが翌年四月の頃よりして次第に絶えたり當社の文化の始とやり出しける頃坊間に鬻ぐ錦繪草紙落語狂文の類梓ふ鏤しひやらる然るハ文化三年芝草町より出たる大火の後すたれたり○同十五日快晴暖氣神田明神祭禮神輿行列のみにして晝四時頃神田橋を入常磐橋を出て夫よりハ例の道筋を渡しまいらす夕八時還輿あり産子町町車樂ねり物等更おこれなし○同十七日夜九時頃葵坂下鍋島侯中やしき焼亡○倫盜の賊超過に付十一月より市中所々に假の屯所十餘を設けて別隊組撤兵組其他の兵隊夜々こゝに屯して坊間を巡視して賊徒の防とせらる

慶應丙寅

又諸侯よりも巡邏の人数と出さる何れも新たなお建敷るおわらぶ家の美惡よりらむ人数多く屯集するの大坂をえらひてその所お招するなり

○十月二日去ル安政二年震災お死亡の儔十三年の忌辰に付諸宗寺院お於て法事修行あり緇素參詣して香花をさゝぐ○同廿六日金札お發行お付來々巳年三月迄金銀同様に通用いたし今年貢之外諸公納に用ひ可申旨お詢あり

○十一月二日淺草寺觀音堂修復成て今夜遷佛供養あり信心の男女夜中お群集す ○同月十八日大の月三月續ち中の月故昨日今日芝金地院觀世音開扉搦子を與ふ

上 二九 炎 薩路燒

○十二月廿三日明六時二の丸お炎上あり○同十三日歩兵の輩吉原町に於て喧嘩に及び同十四日多勢くゝに集り來り銃炮を放ち家屋を鉤鉏する事甚し廓中の男女周章恐懼して他所へ遁れたりしが官吏より漸くに鎮られたり○同廿五日芝薩州侯屋敷お於て事あり其顛末お知らされど曉より討手を向られ藩中より火起りて烏烟天を焦し炮聲屢響渡りしかば部下の良賤仔細を辨せ急遽懼怕して防厝の思ひをなせり夫より近傍の市中此兵變に罹りしお芝西應寺町同金杉四丁目同材木町本芝一丁目二丁目芝田町五丁目より八丁目迄燒込寺お西應寺法泉寺永門寺源照寺薩州侯高細屋敷島津淡州侯南品川宿一丁目より四丁目迄長徳寺門前妙國寺前等なり○深夜小出侯屋敷火事○冬の頃夜中竊に屋上又お垣塀の内家前等へ

神佛の守札を散らし置ものあり翌日其家のあるト奴婢等これを拾ひ得て不思議の事として尊信するものもあり人心を惑はす所爲なれば官府よりお沙汰ありやぐて此事止たり○寫真鏡圖說初編一册梓行故人揚江柳河敷春三子選二編お明治元年お梓行せり

武江年表卷之十一畢

武江年表卷之十一 慶應丁卯 廿一 武江年表卷之十一

武江年表卷之十二

齊藤幸成輯

明治元年戊辰 四月間 九月十六日改元

幕府還
御
伏見戰
爭

大小名
就國

○正月元日快晴○同八日曉湯島切通一棟梁屋敷より失火して芥坂手代町武家地等
焼る○同十一日夜幕府去年より大坂表進發ありしが故ありて蒸氣船にて還御
あり二月より東叡山お籠らせらる其顛末知る所にあらされバ誌さき早春より西
京大坂戰爭ありて人心おのづから穩ならざ○同十七日より市井救火の人夫とて
て炮術調煉の足並を習はせらる二月二日迄して停らる

○二月三日曉和泉橋外廻町平河町代地火事○同九日曉四谷門外廻町十一町目よ
り出火この邊五町程類焼せり○二月頃より諸侯并妻室大方在所へ歸國ありは旗
本衆も知行所へ趣れたる輩多し○同廿一日上野御門主西京へ發興諸侯送り
あり○同月末所々門見付番を撤兵隊に改らる○同廿三日此頃歩兵共市中に於
て暴行に及ぶ事屢なる故は警衛として坊間所々へ陸軍方出張して召捕られしに
より追々鎮まる○上野山内締切り諸人入る事ならざ花の頃遊觀これなし○同月
日 畫人池田孤村死六十餘歳若松町に住む故抱一上人の門人なり押上大雲寺お葬す ○淺草田甫新堀と立花侯下屋

敷鎮守太郎稻荷社の前にいへる如く去年より俄に諸人群をなして春の味に賑ひけるが世上の忽屑によりて四月の頃よりして調祠の輩次第に減下ければいまた造作なかばなり商店も皆空しく廢家とされり○去年より世上金銀の融通あしく諸商賣甚うす一質屋休多一夫冬高輪の忽劇以來人心安からず浮説等いひふらける者あり武家町人とも奉公人あ暇を遣はける輩も多かりと車力船頭諸雇の類賃錢の餘計を乞ふもの甚し○春より兩國橋西詰に足藝女を見せ物とす大坂下り花川小鶴と号一年齡廿歳計りなり 兩足の指をこたらうす事自在おして糸車と廻し糸をとり花瓶に花をいけ火を打て行燈へ点し縫針の足さをなし煙草をさせるへついで呑み其外色々の技をなせり按に昔もありしもの也友人楓園がもたる二枚折の屏風寛永の頃の圖に四條河原の見せ物あ足藝の女あり足の指みて矢を射る

○三月二日夕八時頃日輪緑の色にて外輪の光右に撓挑を疾く風車の如く常の日輪の如く羞明ことなし○三月より勅使御下向官軍の發向あり尾州侯藩邸池上本門寺また芝増上寺淺草六郷家藩邸等へ追々お移着ありて西城へ入せらる其外諸寺院下宿となり追々會津仙臺等へ進發あり これらの事件の容易に誌し得べきにわらす中外新聞日誌の類官制梓行等のもの ○三月頃より人心穩ならざ諸方へ立退くものあり又圖評辻斬等多く夜中へ別て往來少し又強盜多し○春の頃より東海道駿河遠江の邊より始り虚空

より太神宮の祓太麻ふり又宇内の神佛の影守護の札ふりとして村民等これを尊み祭り酒飯を調へて親戚知己又の道往く人をさへ饗一次第に長して男女老少にいたるまで一様の新衣を着し花万度と持出し伎踊を催して瞻ひける此風俗江府の市中に及ぼし古き守札など竊お降らして惑はせし族もありけるが程なく止たり信州の邊にも流傳して此事あり彼地にも殊に美服ととのへ伎踊物を催して賑ひけるが是も程なくして止たりとなむ○此頃より次第に梓行して公布ありし官版又の私撰の物あり其目錄大畧を擧ぐ この内多くの編を繼梓行のものなし

- △太政官日誌 △行在日記 △江城日誌 △鎮臺日誌 △東京府日誌 △金川府日誌
- △鎮將府日誌 △市政日誌 △即日誌 △東京城日誌 △京都府職制 △政體
- △御國分武鑑 △中外新聞 △中外々編 △内外新聞 知新館 △遠近新聞 △新聞雜誌
- △日要新聞 △公私雜報 △日々新聞 △江湖新聞 △西洋新聞 △外國新聞
- △東巡日誌 △每得新報發 △復古論 △國病論 △護國新論 △閑愁論
- △六合新聞 △博聞新報 △公議所日誌 △京都府人民告諭 △奥羽人民告諭
- △議案錄 △てれがらふ 御布 △明治新聞 △都鄙新聞 △京都府布令書
- △駿府御城内名勝一覽 △藻摺草 △そよふく風 △此花新書 △西洋衣食住

武江年表 卷之十二

御牧

△湊川灌餘 △奥羽地圖△乗合はなし 寫本 △諷歌新報 文雄 △泰平安泰鑑△鉄

炮洲ホテルの圖

○もじは草といへる板本ハ俳優澤村田之助去卯九月脱疽を患て亞米利加の名醫平文先生ハ療治を乞へ右の脚を股の所より切取て跡に藥を施たり其時田之助が頼にて平文の國許へ彼國製の脚を注文せしむる四月の頃詠の足一本を送り越したりと云々此足を繼で藝をなすに更にかはる事なしとぞ○同十三日晝九時過雷鳴霰降る○所々武家方持辻番所空屋と成る

官軍入城

○四月朔日勅使御下向有馬侯邸へ参着四日西城へ参入○同二日下總國市川八幡行徳船橋の邊に脱走の浪士一揆を起しければ官軍方討手として出張浪士と戦争あり一々バ程なく鎮靜あり 其外諸方あり ○四月先の幕府上野大樹院より常州水府へ参退あり 十一日早且 ○同十七日より三十日の間淺草矢崎本覺寺祖師開扉○同十八日曉丑刻南西大風本郷春木町三丁目より失火して賀州侯明屋敷殿向殘らき焼駒込の水府侯長屋へ焼込たり○外神田結城座にて女歌舞妓芝居興行す見物多しこの頃所々寄せ場にて當時聞えし人の長唄をうたはせ聴主とまねぐ○翹町九丁目心法寺境内にて曲馬の見せ物と興行す

○閏四月より五月に至り霖雨所々出水あり○同廿九日徳川龜之助殿御相續仰付らる○市中巡邏官軍方参持と成る

彰義隊

○五月八日夜大風雨あり大川筋満水所々出水神田明神社後の方并に湯島の屋崩れ落て下なる家と毀ち怪人あり○同十三日夕急卒に柳橋往來停らる○同十四日暮時より俄ハ昌平橋筋遠橋邊其外へ官軍方出張ありて即時に人夫を雇集られ土俵を積で封疆を築せらる 十五日より三日の間 ○同十五日雨天曉より官軍東叡山方面はれ山内ハ籠り居し彰義隊と號せし脱走の浪士と戦闘あり谷中邊を始として大砲を放され又三枚橋通りへ押寄せ双方より大砲を發して戦ひ成り夜に至り山門其外に火を放つが故惜むべしさしも覺を並べて壯麗たる根本堂多寶塔輪藏鐘樓常行堂法華堂文珠樓門御本坊寺中ハ本覺院凌雲院寒松院涼泉院覺王院顯明院明教院等俱に舞馬の阨に罹り片時の間ハ鳥有となれり清水堂山王社時の鐘慈眼堂大佛堂忍岡稻荷社下寺等ハ殘る右戦争夜半に及び浪士大半亡び又ハ逃亡して一擧に鎮れり 寒松院ハ浪士の病人其外燒死人多く其數を知らずとぞ 本尊瑠璃光佛ハ退せられたり瑠璃殿并吉祥閣の勅額寛永寺の御宸翰さま々の寶器佛具等多く燒失たる由なり此兵燹下谷山下等の町家寺院に及し三枚橋北ハ瀬川屋敷五條天神宮元二王門前

上野燒

明治戊辰 廿四

家來屋敷啓運寺車坂町淺草寺町の邊町屋寺院徒士組屋敷南の黒門町大門町常
樂院仲町お數寄屋町西の谷中善光寺坂三崎の邊にいたる迄町屋寺院悉く焼却せ
り此邊の輩財寶を持運ぶ暇なく漸命を全ふして逃るのみなり其翌日山内のさま
街の騒劇おもひやるべし所と通行とまり江戶中の商家も大方なりはひと休みた
るもの ○同夜番町に放火三度程有 頓消したる由なり ○同十六日夜赤坂水川社の近邊
にて旗本銃隊頭多賀氏齋藤氏の邸へ浪士大勢集り大炮を發し戦争に及しおぞ
火事お成りたりされと問なく鎮る ○同十七日飛鳥山の邊落武者を討留るのため
官軍急固あり ○道路其外盜賊多し ○同十九日三奉行 寺社町方を勘定 を改め布政民政社
寺裁判所と號せらる ○町會所より下谷谷中邊兵火に罹りし町々の貧民へ救米
錢を頒たる ○米價諸物彌貴し ○上野兩大師慈眼堂へ安置し奉る 山内卅六坊兵燹
に罹止と成月
は應の遷應止む

○六月八日かゝる中にも兩國川通花火ありて樓船數多く船連ねて絃歌喧しく水陸
の瞻ひ大方ならせ ○同十一日中橋天王湯旅出あり 今年江橋向迄
渡しまるらす 今年祇園牛頭
天王をあらためて須賀神と号せらる 牛頭天王の習合の神なり神
佛混淆を忌給ふ故なるべし 十八日還輿あり
廿日小船町天王湯旅出あり八雲神と改らる廿六日還輿あり大傳馬町天王も八雲
神と改らる今年湯旅出なし湯藏前其外の天王も素尊として須賀神と号し奉る日

吉山王權現を日枝大神と改らる當年祭禮延る ○同十四日夕七時過ぎ雨雷鳴あり
所へ墮るこの頃大雨屢ありて快晴の日稀なり本所の邊へ人家を浸すこと度
となりし七月八月も又霖雨つゞき 大雨の
日多し 菜蔬生ざる事稀なりよつて價登揚せる
事甚しく近來かゝる事と知らせ

○七月十四日夜九半時頃雷鳴強く大雨降る ○同月の頃より下谷徒士町本所深川
番町の邊其外に小身の武士家祿奉還の儀又ハ元御用達町人等商賣と始む骨董舖
分て多し或ハ貨食店酒肆茶店汁粉蕎麥餅漬物紙類烟草蠟燭乾魚其餘色々物を
售ふ人多し夫が中に下谷おち町殊に盛にして招牌を掲げたるもあり 是を番付
力おどりくみ或ハ世間の噂をして童謡俗謡ハ
つたりなし梓お上せて街巷ハ囁ぐもの甚多し
おちりれども多くハ商賣の道お疎き
輩なれば贏餘を以活計とするに足らざ間もなく閉店の人多かりし又秉燭の頃よ
り大路に席を設け器財其外の市となす事行れて本郷四谷神田の通り町筋其他所
々に在り ○番町小川町邊其餘武家邸櫛比の地おも其第宅を自ら毀ちて沽却せる
も多し ○此節歌舞妓芝居見物甚少し ○七月頃より湯島天神下自性院に於て元三
大師の畫像を拜せしむ

○八月今般御一新お付大赦被行科人追ふお赦免に成る ○八月江戸を號して東京

家來屋敷
還入

大赦
東京

徳川氏
赴駿

居留
貿易

と改給ふ○同東京の内區別を立一區ツ、諸藩に取締方を被命晝夜巡邏して非常
と警らる○同月上旬異星已の方み現す此月雨天多く晴天の日稀なり同五日雨深
夜に至り大雨盆を傾る如し○同九日當徳川侯殿府へ御發駕あり同十日より御門
見付守衛嚴重に成り新規關門并木戸迄取建有り御廓内猥に通行する事と禁せ
らる○同十二日東京府開市相成鉄炮洲へ御條約の濟し異國人居留貿易迄宥免に
成る○同十五日曇天月宴更になし

○同月東京府御裁判所吳服橋内鍛冶橋内の二ヶ所元町本行所を廢して幸橋門の内松
平時之助殿柳澤藩邸へ移され一箇所と成る○同十三日迄御あり八十八歳以上以
下の者へ迄扶持被下百歳以上のもの三人扶持下賜り旨に有之○同廿八日暮
時前地震強し○同廿九日曉四谷竹町火事○此頃諸物價貴踊せる事甚し

○此頃世お行るゝもの

△骨董舖△濁醪△外科△西洋諸品△賣卜者相工△鳥銃の工人彈藥△兩替辻店

△曳車漢△粉團汁粉餅蕎麥店△行厨舖△寄場△私窠子土妓

○少しく衰たるもの

△吳服店△花街雜劇△鏡頭舖△轎夫△監甲細工△伎踊師音曲者△茶湯者△畫

匠△俳諧師△文藝の輩△市井地主△奉公人口入△寺院△藝花園△武家出入商
家△武家日雇井入口△書畫活花會其餘多かるべし然れどもこの頃一旦の衰お
及び一なり又甲冑弓箭△大小拵屋刀劍斫師△辻番受負等ハ廢務の如し○劍付
鉄炮ゲベルや、廢れり

○海賊橋際牧野侯邸跡と蠶糸改所に和泉橋藤堂侯邸跡と病院お同所脇種痘所を
醫學所に新シ橋の醫學館を種痘所に定らる

○九月日本橋四日市迄肴役所神田横大工町續迄青物役所迄廢止○九月十三日より

十月十三日まで堀内妙法寺祖師開扉あり門徒ハ更なり其餘詣人多し○同月町年

寄三人役儀迄免庶務方に命せらる○九月曇天の日多し○同十六日年号改元あり

慶應三年を明治元年と改らる 御即位によつてなり○十五日神田明神蔭祭にて本社へ參詣のみ

なり○同十六日亥刻過芝仙臺侯明屋敷焼亡類焼なし○同廿三日夜新井梅照院焼

亡藥師如來安置の寺なり ○同廿五日本所林町火事○下旬より市中道路に在る所の木戸商番

屋自身番屋と唱へ坊間の邏所も取拂せらる坊端の番屋計り

○十月所々高札を建改められ四宿其外へ傍示杭を建らる○同海賊橋を海運橋と

改らる同所蠶糸改所と商法局取稅局に改らる○同十二日明六時淺草寺地中醫王

蠶絲改
所

改元

改高札

御筆着

揚示場
札通用
禁神佛
混淆

院門前より失火して南馬道まで焼る夜明て鎮る○十月十三日快晴今日

御鳳輦東京に着賜ふ九月廿日西今朝品川の驛を發し給ひ京橋通りより通り町筋通

壹丁目二丁目之間より西へ吳服町通吳服橋を渡らせられ未刻頃西城へ着給ふ貴

賤老稚道路に輻輳して拜と奉る更に寸地と漏さき錐を立つべき所もなかりりし御

行列の次第の梓あせて行るゝものあればこゝに誌さき涉道筋左右お坊を結ひ

切た○同月市中に布告の張出し場を定らる○金銀札通用と始らる年數十三年

と限る金の五兩壹兩壹分一朱と分る○神道佛道混淆を改らる神社の神職に改ら

れ境内の佛井の他所に移し寺院の境内の神祠を他所の祠へ合祭し或は社寺の境

内を分てり○神佛道混淆の事沙汰ありてより諸社諸寺境内に勸請安置の神佛

他所へ移し或は神社の其構へを別ちて社務を設けたり淺草寺境内に殊に神祠佛

堂數多ければ神社の大りた三社の境地へ移せり△此後諸社別當佛道を廢し復筋

せるもの多かりこゝに畧す△増上寺瘡神稻荷茅野天神飯倉天神白金稻荷丸山稻

荷等切通し幸稻荷社へ相殿に成る

○十一月官幣使參向十五日の神明宮品川神社氷川神社日枝神社十六日の神出神

社根津神社王子神社白山神社十七日の富岡八幡宮龜戸天満宮なり○同月四日快

晴今朝六時より東京市中一統の者惣代地主家主名主付添出る 東京府へ被召出

御東行御祝儀に付酒を賜る一町へ錫一連土器一片木臺を添られ名主一人へ瓶子

二ツ宛酒なりこれに依て物持人夫宰領のもの各黄紅等の手巾をもて頭を抹し

或はあらたに幟旗を製し竿の上へ色々の造り物を付てこれを先に立歸路に車

夫と備ひて酒樽を車に積太鼓鉦にてはやゝものとして各其町内へ曳し途中より

の男女打雜り大路を陸續して順ひ行く又その翌日より頂戴の酒びらきとて

家業をバ大方休み車樂伎踊等を催し日夜をいはせ戸々に宴飲舞踏して東方の白

きに驚るも多かりし其さま神事の如く中に獅子頭を渡しけるもありて三四日

の間賑はへり○同九日午の日にて山下御門の内薩州侯陣營に在る所の稻荷社祭

禮あり相撲興行あり町人の分參詣見物をゆるされ下賤のものへの酒を給はりた

り○同十一日夜淺草駒形町小火○同十二日曉八時頃深川富島町火車一町計り燒る○同

十九日より開市相成り外國人居留交易の宥免等に付築地鉄炮洲一圓諸侯の邸跡

等取拂外國人居留地と成り或は町屋と成る其内新湊町六丁目七丁目八丁目九丁

目新榮町六丁目七丁目八丁目九丁目入船町七丁目八丁目九丁目等ハ居留地と成

又此所南飯田町新榮町數馬橋より北の方にて稻荷橋の邊までの間もあらたに娼

築地居
留地

廓と開しめられ新島原と号せらる其町名あらたに設る所花園町櫻木町青柳町壹丁目二丁目松ヶ枝町八重咲町梅ヶ枝町千歳町吳竹町初音町壹丁目二丁目入船町壹丁目より五丁目迄新榮町壹丁目より五丁目迄新湊町壹丁目より五丁目まで翌年にいたり娼家の造營落成し茶店拍戸擔端を排ねて絃歌巷に鶯しく繁昌の廓とこの間廓内へ入る遊客帶劍を禁せらる後明治四年元地吉原町又根津門前へうつされたり ○鉄炮洲交易場町割出來に付いなり橋際稻荷社新湊町一丁目續へ移さる○菊の御紋器物其外へ付る事と禁せらる○寒中あたゝかにして雨稀なり○同十三日の頃南八町堀において西洋の歌舞妓狂言に等しき芝居興行せり○同十六日晚より十九日朝まで新嘗祭御執行十八日御當口なり是より年々迄執行有之よつて一々不記○同廿七日武州足立郡大官驛一の宮簸川社へ 行幸あり神田橋より元迄成道本郷通り駒込巢鴨通り通御あり迄道筋僧尼を禁せらる

○十二月八日西京へ一旦還幸あり來三月東京へ御着輦あり○同鉄炮洲交易場町割出來に付娼廓の東の方左に記る場所商賣筋お付て望のもの廿五日に願出る様迄入船町壹丁目同横町新榮町壹丁目新湊町壹丁目同二丁目稻荷新道等なり ○寫真鏡の枝の次第に弘まり所お場を構へ客を招ぎ其像をうつし好みおよりて紙お寫し玻璃漏にうつせり又山水景樹俳優娼妓の容貌をうつせる物と市店にならべて售ふ事明治六七年の頃より始り今これのみ商ふの家年々に倍せり

明治二年己巳

○正月暖及早春梅花開き中旬紅梅開く去歲より火事なし

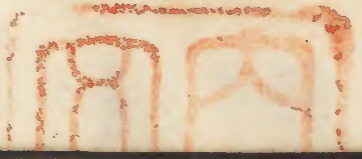
○二月兩國橋西の橋臺元迄上り場新規町屋に命せられ新柳町と号す○同月十一日曉下谷長者町續武家地火事五十間程燒 ○同月世上新聞誌出版迄免○同十四日より上野參詣花見等をゆるさる日毎お遊觀多し○同廿三日廿四日廿五日吹上御庭へ貴賤男女拜見をゆるし給ふ半藏迄門より吹上西迄門へ入植木御門より竹橋迄門へ出る群集夥しくして終日縱觀す○神田多摩川兩上水迄掛り營繕局迄持に成る○

同月廿七日より六十日の間高輪泉岳寺十一面觀世音摩利支天開帳淺野家義士の遺物を見せしむ此時境内見せ物に一間餘りの螺の形を作り山伏二三人驚たる跡の偶人を作れりおのれも當寺に詣してこの見せ物の金主の内菅村某の案内おつれて是を見てさても不思議の細工うな真の物お等しといひけるを金主うるたへ手まねしてこれをどいめける是はまつくといふ物よて作りしが真の物といつこり見する手段なればこゝめづらしやくいふ螺も世お有けるよといひ ○須田町二丁目廣場東の地先へ相撲興行の事湊川何某の願濟を二月より興行せり

○三月三日より五月十三日迄池の端辨天開帳○同日より六十日の間多摩郡井の頭

狀紅年表卷十二 明治己巳 廿八

磨名主



戸籍編

御着筆

免渡航

根津娼家馬車渡世

金札相場 教育所

辨財天開帳あり

神田上水の源なれども江戸より七里の行程なれば

町々の坊正名主と稱す二百三十八人東京府へ被召出今般市中迄取締筋迄改正に付一

同役儀迄免翌十一日尙又一同被召出右之内元名主并見習勤の息子また致仕の者

合て百人その内六人の世話懸り四十七人の中年寄三十九人の添年寄に被仰付御

府内を五十區に分たれ一區は中年寄一人その餘の者に御手當を賜りたり又六月

より町年寄として身柄宜しき者一小區に五七人町用掛りとして十人廿八位人選の上

命せられ町々自身番屋といへるを廢し一小區の内一个所ツ、町用取扱所を設く

○所々町名不相當の分の相改又隣町へ合併等之儀迄沙汰より追々に相改む

此一條多端なれば記さざれば町鑑を見て大略を知るべし○戸籍御編製の儀去年被仰し處三月尙御

沙汰あり是より次第に嚴重精密に成る御規則其外多端ありて一擧に盡しがたし

此布告の板本數篇出しを熟覽すべし○同十四日夜三味線堀佐竹彦藩邸火事○同廿五日曉之中門前

火車○同廿八日東京府へ

御着筆相成御駐筆

○四月八日井の頭辨才大別當大盛寺燒亡本社火場所を阻て恙なし○同十八日明方神田明神社

神主柴崎氏宅燒亡社頭末社社家の宅等へ別條なり○同月中御條約濟し各國へ趣

度望の者の其段可願出旨迄御有之○同月根津門前娼家殘居しもの三十軒箇今年

の問商賣迄免あり○同月芝口壹丁目西側家主久右衛門外八人馬車渡世の事願之

通免許せらる内二階付馬車といふあり○同廿七日地震少し強し

○五月金札相場金一圓に六十匁換に命せらる○五月醫師畫工諸職人位階國名受領

官方より賜り儀迄廢止の旨被仰出○同月より三田壹丁目へ教育所迄取立録算

孤獨其外貧民迄扶育あり總山積みも同様に取立あり○同廿八日内神田濱町築地邊迄廓内に准

する旨去年九月迄御有之處この度神田橋より昌平橋通と境と一東の神田濱町築

地邊と以後迄廓外と可心得旨迄御有之○同月の始より淺草三好町に不思議の見

せ物と号して興行す天井へ星を付てさうさまあるき或ハ電信機をもと釣たる

やすくかたげさせ猫を踊らせ其外色々の工術太鼓をならし大人もたけ得ざる重き箱を少女にもたせて

となして見せけるがさのみ見物人もあらざりし○淺草寺奥山小女芝居はやり又女

の能あり

○六月當年神田三社天王迄旅出あり小舟町の九日出興十八日歸社南傳馬町の十日

歸社なり○此間京橋南に大路をまたぎて大なる鳥居を造出興十八日歸社大傳馬町の十五日出興十八日

る勝き板を廻して張其上を紙ふて張り黄土をもて塗たり○六月末より淺草奥山に

警者角力を見せものとして行れたり○同廿日日枝大神もと山祭禮執行あり

車樂違物等へ出させ神輿渡世の道筋横町へ切なし道筋の表門より永田馬場通霞ヶ

關より櫻田門入御所下馬前橋上にて奉幣夫より神祇官門前通和田倉門辰

武江年表卷十二

明治己巳

廿九

武江年表卷十二

招魂社

一兩十貫文
受領地
上納地
拂下

の口より左常盤橋邊門邊端通拾軒店本石町大横町より大馬路馬町小馬路通鐵炮
町より人形町通箱崎橋崎橋崎橋靈巖島橋表茅場町より浮旅所へ入夫より坂本町
海邊橋青物町萬町より通一丁目大通京橋を渡り尾根町より南なべ町山下門鍋島
邸より右へ日比谷門外通櫻田邊門外邊端通半藏邊門前より越前一丁目より十
一丁目迄かへし五丁目大横町赤
坂邊門内より永田町通歸社あり ○南部舊邸并下谷竹町元藤堂族中屋敷へ諸浪人
男女移住被仰付手當被下生活之道立の様職業勵み可申旨被仰渡有之 ○五月よ
り六月に至り日曇又ハ雨降り快晴の日稀にして冷氣なり七月八月も同ト○夏
の頃より九段坂上馬場の跡へ招魂社創立あり是ハ近年諸國并近在東京上野其
外戦争の砌報國盡忠の儔戰死の亡魂を慰給へんとこの沙汰として此邊造營あり
けるよとなり今年ハ未だ假建にて翌年に至り三町餘り奥の方西へ移され悉く境
内となり給ひ五年あ至り壯麗なる社頭建立あり毎年正月三日五月十五日より
十八日迄九月二十三日祭禮の式執行あり 月次祭日三日十五日
○七月十日より天下一般錢相場金一兩ハ付十貫文換ハ決定あり○舊幕府家臣用達
町人等家祿奉還後町屋敷上地受領地上納地等道々拂下成る○牛込原町根來
山報恩寺ハ新義真言宗本尊不動尊なり此頃廢寺と成る舊幕臣根來組の持な
りしが家祿奉還の後寺産に充へき物なきハよつて自ら廢せりと聞えー○同十三
日朝王子權現田樂祭の儀當年社僧退て神主持成とより村中の男子少年のもの
へ教へて踊せたり○同十三日朝五半時頃より大風雨にて家屋破損多一 新島原我
人あり九段坂上にも長屋潰れ丸の内 〇夏より冷氣にて雨多く大川通納涼の船更
笠原家中長屋潰れ往來ハ途々怪あり 〇夏より冷氣にて雨多く大川通納涼の船更
に少し○七月より通商司爲替會社より壹朱金札出る 片面蓬萊龜松竹梅片面 〇同
月英國王子參着濱御殿へ入らる廿八日ハ參朝あり○同廿六日夜雨降る 廿六夜の境
月をらし 所甚淋

通商司
英王子

大學校

桑茶培
養
種痘所

蝦夷開
井

○八月中旬も曇雨十五夜月を看せ○湯島聖堂を改て大學校又師範學校と號せられ
一により八月より昌平橋を改て古名の如く相生橋昌平坂を本郷坂と改らる○八
月邊府下市在土地開發の場所桑茶培養と專一と心得可申旨邊詢○同十四日十五
日富ヶ岡八幡宮祭禮を渡しまいらす川手前ハ乘船なり ○同廿三日種痘の事植
痘官府より厚く邊世話爲被在各最寄の場所心得居り痘瘡前の小兒出生より七十
五日又ハ百日迄の間左の種痘所へ願出其法方を授りハ様邊布告有之一ハ分三納
め美倉橋向 元醫學館の跡なり扁額散華 三拾間堀一丁目芝赤羽根小石川三百坂淺
草三間町深川海邊大工町以上六箇所○蝦夷地邊開拓に付望の貧民を以男女四百
人木匠九拾人を彼地へ趣めらる○同廿三日より龜戸天滿宮祭禮神輿渡る産子
町車樂伎踊等ハ出さぎ○八月淺草天文臺邊廢止同屋敷取拂跡町屋と成る

明治己巳
三十四
三十四
三十四

○九月十二日澳太利國公使參朝○同十五日神田大神祭禮晴天にして五半時出興夕八半時還輿あり町車樂附まつ道筋へ一昨年に同し○同廿日芝神明宮例祭當年羽車といへる神輿を營み産子町を渡しまゐらす人多く群集す○同月末成田山不動尊旅宿深川永代寺へ移る○新島原吉原の例にて俄祭を行ふ見物群集して賑へり○同廿二日廿三日招魂社九段坂上祭禮執行此邊の町にて道戯踊等を催し詣人多し○同廿二日廿三日土州侯邸鎮守稻荷社祭禮あり飭り物多く出來聲妓七八十人木遣の唄をうたふ能芝居角力等あり兩日庶人參詣見物せゆるさる夥敷群集なり○九月廿七日より高輪救小屋開野非人老幼廢疾等の者扶助あり

電信線

金札

○十一月神奈川縣より東京運上所迄電信機銅線掛渡しに相成旨の布告有之十二月十五日より診開相成○同月廿三日深夜麻布十番火事明方鎮る○同廿七日曉八時頃上野町火事長者町迄燒込松坂屋の○同廿九日晝四半時過大名小路會津侯舊邸兵部省より出火夕七時鎮る○通商司より金一兩同貳分同壹朱の金札出る○十二月十日夜本材木町續中橋和泉町河岸納屋より出火して三十間計燒る○同十二日亥下刻神田相生町指物師金二郎宅より出火同二丁目麴町平河町代地相生町松永町龜住町花田町代町山本町等燒亡長二町半幅二町程なり○同十七日十八

蒸氣船
脚船

日淺草寺年の市快晴なれど例より高ひ物賣れを食店も是も同ト○十二月雨少し十一月十五日雨降り後日照のみなり○同廿五日曉芝中門前十五番組町用扱所より失火○同日小石川大日坂火事○同廿七日子下刻元數寄屋町の米屋にて餅春より誤て竈より失火し南鍋町南佐柄木町山下町加賀町八官町山城町丸屋町鎗屋町の邊尾張町銀座町邊木挽町新橋燒落汐留芝口三丁目迄布袋屋松坂屋跡おて燒脇坂侯仙臺侯元屋敷邊まで數箇所燒亡す長九町幅平均して四町半程なり翌日朝五時過鎮る○中橋和泉町より八丁堀へ渡る越中橋を久安橋とあらたむ○十二月廻船會社付蒸氣脚船御備に成りて午正月より東京大坂往返いたすに付船用の外あても男子便船免に付荷物までも相當の入用差出し望の者靈巖島廻船會社へ申出る様布告有之正月廿一日より出船す○夏の頃より上方下りの女商人頭上に菓子の箱と載せ街とあるく物多かりが間もなく止む

明治三年庚午 十月間

○正月元日晴天去年十一月より雨更に降らば寒氣烈し○同夜芝源助町より出火西側一町程燒失す○同三日神祇宮日比谷門内於て御親祭被爲有翌日より士民參拜をゆるし給ふ平民の九日より十九日迄なり○淺草燒藏前新町家大方出來る○深川淨

御親祭

紙江年表卷十二 明治己巳 三十一

心寺前に貧民細工物職業營みの爲建物に設られ爰に止宿せしめらる○正月七日初雪少し降る十九日又雪降る○正月神田多摩川兩上水修復補益の爲小石川御門外神田川の端へ土木司より水車御取建に成米穀春立始る○同廿七日夕七時辰の口元評定所當時貨幣局より出火類焼これなし○同廿八日根津三浦坂邊組屋敷焼失○春度々小火あり○同廿九日鐵炮洲運上所より馬場先門内民部省へ電信機掛渡し成り土中を掘り竹筒を埋る

郵船規則

○二月郵船商船規則改行あり○同月三日夜五半時富坂町續火除地板の上り口茶店の明家より出火水府湯やしき内へ飛火あり○同四日日本郷春木町續近藤家邸出火○同十日初午鳥森稻荷の例の通り旅出日比谷稻荷の産子町々類焼故旅出無し○虎門京極家跡金刀比羅神社鳥森稻荷社神主の持に成る○同十日曉小石川傳通院脇同心町火事富坂邊まで焼亡す○同曉龜戸町貸食舖巴屋より失火して此邊の町屋多く類焼す○今年へ上野山内清水堂の邊よりすりばち山の邊其外へ葭簀張の茶店食店等夥しく出る花見群集多けれと俗人のみふて日々喧嘩口論多し女大夫山内へ入り山内魚肉を禁せむ○芝神明宮境内芝居を始問も無く止○芝將監橋際用地に成り水車を造らしめられ教育所の米春立あり其餘所々に出來たりしが悉く廢止となれり○砂村王地稻荷社大和いな

大病院

り俗せんさいなりといふ○二月和泉橋通徒士町西側町屋出來武家の建物をバ商家後雨側とも○外神田藤堂侯邸内南の方大學東校北の方大病院と成る○九段坂上招魂社の去年創建の處坂下武家地へ同所用地に成り建物取拂空地に成る同社構への外南の方町屋出來後取拂

驛遞局

○二月驛遞寮於て御取開相成遠國近在互お情と通ト安否を尋品物相場等急速に知らしむる爲所々へ郵便箱を御免差出之儀近々御處置可有之旨御布告有之二月より郵便箱辻々へ出る此御仕法貴賤の裨益誠に有難き事とて世舉て悦びあへり

神武祭
外朝参
朝参

○三月上旬より新島原根津門前猿若町往還の中央へ櫻樹多く栽る○三崎法住寺の俗に新幡隨意院と云本堂大破に及しり檀家も無之普請整ひかねて無據取崩れたる儘なり○同十一日神武天皇御祭典神祇官に於て取行はる是より年々御執行あり○同十四日英國の聘船品川へ着○同十五日伊太里國公使并英國水師提督参朝○同十五日より六十日の間龜戸天満宮臨時祭開扉あり○同日より六十日の間淺草寺觀世音開帳○上野山王社廢止○同月幸橋御門外御用屋敷町屋に成り追々出來同馬場成る○元大坂町續銀座役所町屋に成り分次第に家作建揃ふ○同月末より四月迄御藏前大護院にて觀世寶生の兩氏能狂言を興行し見物を招く○

桑茶培養の仕法委曲の御印本園林地拜借の者へ渡り成

○四月朔日兩國橋際の拍戸にて聲妓清元房八といふもの書畫會を催す○谷中大圓寺瘡守稻荷本堂へ移し藥行王と号す○淺草八軒寺町本法寺熊谷稻荷も普賢并と改む○同十七日駒場野にて練兵

天野被 遊ひに付御途中貴賤群集して拜し奉る○御府内所々に兵隊訓練場取設あり○九段坂上招魂社脇南側町屋に成る富士見町といふ○淺草寺中念佛堂の邊にて能狂言興行○吉原町娼樓お於て遊女の踊はやる錦繪お多く印行せり

○五月より神田川浚方御用始る貧賤の男女老稚競て此役とつとむ始り日々四百餘人ツ、次第お増て一日七百餘人又九百餘人に成り七月に至り大方成就す○同月

虎門外町屋追々に建○同十四日より招魂社祭禮執りあり社は四町計西の方へ引と未修繕なり同五年は造管あり此日開費賤群集す十四日太く神樂十五日祝炮十六日晝夜花火十七日同斷十八日相撲夜花火の處雨降る此邊町に飾り物あり九段坂上は堀端通水茶屋出来し後

○同月より永代橋修復始る後又は模様替あり○去年十二月外神田類焼町の内神田相生町外十ヶ町正中御用地に召上られ右の場所一万二千餘坪の所除火の爲墨地に成置れ其中央より東の方へ寄り鎮火の社御創建お成同十五日上棟の式有之十七日十八日に此邊のもの御宮廻り新築封の土手土

持とて衣類を飾り小石川御門外御堀端の泥土と運ぶ廿一日に三度目にて婦女聲妓等美しく装ひて出たりよつて見物群集をなぞり御造營成就して今年閏十月十五日御鎮座なり祭神は火産靈神軻遇塞岡象女神山毘賣神以上三神にして鎮火社と号せらる社務は神出社にて司る七年二月よりこの所を花園町と号

せらる○世人當社を鎮火の社と号せらるゝをもて子細を辨せぎして遠州秋葉山の神を勧請ありしと心得て參詣のもの秋葉山權現と稱へて拜する人まゝこれあり秋葉山の祭神大己貴命にて後來三尺坊を合祭し習合の社たりしがこのおろ三尺坊は同國可睡齋にうつされて唯一の社といわれ祭神は別神なりあるに此

近邊の聲も世間につれて誤れるが多き故こゝに其趣を記せり上野の兩大師へ詣して弘法大師と心得南無大師遍照金剛と唱ふるものあるもこの類なるべし○淺草寺荒澤不動尊は西宮社の跡へ移されしに此堂前へ成田講中もの成田山とあるいたる挑灯を掛たりよつて彼山信心の者の遙拜所或は旅宿と心得て詣る人多し

○五月より外神田佐久間町其外の代地元御成道東側小笠原侯邸跡へ引て造作中なり○同廿二日講人鈴木鷲湖卒五十餘歳○月末より兩國橋邊川通にて長十二間計

りの大茶船に屋根手摺と拵へ料理と高ひ客を俟て船中へ招く○同廿八日例の通

武江年表卷之三

我目開我書屋

兩國川通花炮揚初の夜なり然るに同夜丑の刻過本所尾上町より出火して元の町邊へ更なり駒留橋際に至る大徳院并門前町

○六月二日夕八時過深川富岡門前南側なる手遊び屋過て花火より失火して深川に僑居の娼樓悉く焼亡す長三町幅平均して二町程なり娼家の八月限元地吉原町へ引移りし様お仰付なり○同七日南傳馬町須賀神御旅出あり京橋南去年の如く鳥居を立十日小舟町八雲神御旅出ありと

りと産子町へ巡行なり○同十五日日枝大神祭禮樂車五輛出す南傳馬町竹川町外二町銀座町本材木町麴町等なり○神輿渡御の道筋は本社より永田町大村藩邸前彦根藩邸外櫻田御門入神祇官前馬場先門通高知藩邸前すきや橋御門より八官町土橋渡芝口一丁目河岸芝口橋渡り尾張町通京橋通壹丁目右へ万町海運橋南茅場町旅所海運橋より本材木町彈正橋本八丁より通高橋東湊町越前堀靈巖島銀町靈巖島町新堀豐海橋渡北新堀箱崎町り網町小舟町堀留町堀江町親父橋渡新材木町所町人形町住吉町難波町通油町を左へ旅籠町大傳馬町鉄炮町大傳馬場本銀町本石町一丁目瀬戸物町小田原町本船町室町通本町通常磐橋御門入瓶橋通り大名小路日比谷御門御堀端○花火の事捨田一丁目より十三丁目迄山元町河町三軒家通り元の道歸社あり

人力車

花火鼠花火の類へよし火玉の高く上るもの都て竹筒の花火御禁止あり○今年夏本銀町壹丁目なる高山幸助といふもの人力車製造の事官府へ願奉り免許を得て是を造らしめ日本橋の南に二三輪を置曳車夫を側に居らしめ幟を立て客を待けるが次第に行れて下鞍に充滿し近在近國おも及べり此物始りてよりこのかた一二里の行程片時あ來往し且行歩の勞と休め其價廉なるを以て籃輿へ更に廢れた

蒸氣船 破裂

り三輪車といへるの芝の會社より出て便利よしといふ自轉車といふの今年秋の本町邊の者より始しが行れ老○同十六日夜四時過清水侯御屋形跡より出火して御殿向其外焼亡す○同廿八日曉丑刻元龍閑町代地出火

○七月五日未刻築地海岸にて亞國「シターフォート」といふ横濱往復蒸氣船銅壺破裂して即死怪人甚多即死九人怪人百三人生死不知者廿七人外外國人十八人程死傷ありしとぞ○同十日夜橋本町二丁目出火半町程焼る○同十六日夜四時過根津門前の邊出火○同十九日朝より雨降晝後大風雨○七月末より九段坂上修復坂上招魂社の正面へ常夜燈を設けるへき大き成燈籠臺と建らる此節より造營始り石を疊て臺とし未十月に至て成就す

大風

○八月十五日富ヶ岡八幡宮祭禮車樂十輛程伎踊臺遷物等出て十四日より賑へり○同廿七日夜九半時本所相生町貳丁目湯屋より失火○九月にいたり殘暑さらす諸人單衣を着するもの多し○同八日黎明より天赤き事紅の如し今日深川越中島に於て煉兵 天覽の處五時頃より風吹き雨も少しく降出けるが己下刻より大風雨と成り大川通家屋を損ひ大船永代橋に流れ當りて橋をも毀ち船をもそこなひけるよしなり新島原中万字屋潰れ遊女八人程其外重き

武江年表卷之三 明治庚午 三十四

武江年表卷十二

我開我書屋

瑕を受け三階の残り其外所々お怪我人あり馬船藏に馬の上の人馬どもも即死と出り○同十二日尙又前同所に於て 天覽あり○同月より新橋より横濱への鐵道修造築の事始る申

月成 ○同十五日神田大神祭禮執行あり十四日賑ひ産子町より車樂九輛伎踊をも催しける○神輿渡奉る道筋ハ大學校河岸通りより本郷竹町同所一丁目湯島五丁目六丁目四丁目神田宮本町湯島一丁目同横町臺所町湯島一丁目同横町左へ臺所町右へ旅籠町一丁目金澤町末廣町松富町神田仲町花房町佐久間町一丁目鐘火社前より裏手相生町松永町東橋協より和泉橋通佐久間町二丁目三丁目河岸美倉橋渡富松町豊島町邊東龍岡町辨慶はし大和町元岩井町龜井町橋本町一丁目馬喰町通淺草門前吉川町廣小路米澤町横山町盤町通 ○巢油町とたご町大傳馬町二丁目より鍛冶町通筋邊修門を以て夜九時還興あり ○巢鴨菊の造り物十三箇所程出来る○同十七日終日雨十八日終日風雨家屋を損ふ廿日大川満水淺草橋の邊水陸同様お成り往來止る○此頃伊豫奉書八枚切の錦繪と板行售ひけるが嬰兒これを好て求るより次第に新板出来る○九月廿日平民苗宇修免の事仰出さる

○十月十九日夜深川海邊大工町火事五十六間餘焼る ○同廿日より招魂社是迄假殿にてありをあらたに御造營の事始りて日々材木を曳く飯田町富士見町の者おのつから浮れたちて伎踊遂物等を催して賑へり○同廿一日夜下谷廣徳寺中地火○同廿二日己刻過富士見町南側に松葉樓と號し貸食舗を開んとて大厦を營みけるが造作中今日箱棟壞れ瓦材木落八二階のねだをこはし怪瑕人三人程ありし由問もな

く修理して商をはとむ

○閏十月廿五日酉刻外神田火除地の鎮火社御鎮座あり御靈代幸櫃神祇官より渡る大祓大殿祭を執行酒饌を奉り奏樂あり諸人亭午より參詣群集せり社前お所の遊をも興 儀のモの神樂 ○同廿九日足立郡大官驛一の宮簸川社へ 行幸あり十一月朔日御參拜同二日還幸なり○同日曉神田山本町代地より出火して元御成道へ焼出で明方鎮る

○同月天社神道と唱へ土御門家免許を受け帶刀しけるもの御廢止に成る○芝口新橋焼て後御造營石橋平らに成り左右欄干紫銅お成る

○十一月廿三日夜五時過神田鍋町の往還にて大學南校御雇の英國人「ダラス」ソングの二人往還人より切掛られ深疵を負いにより狼狽して通新石町の市店へ逃入相手の頼に逃去たり官員方即時に出向れ醫を招き厚く療養有しにより不日に平癒に趣き十二月四日大學南校へ移る抑留の間往來を停め非常を警らるよつて市人の十日の餘商賣を休たり頼て其ものへ厚き御手當を給はりたり相手の藩士脱走人等にて翌年三月捕られて重科に處せられけるよとなり○同月より東京一圓測量お付御掛り方御出張有之同廿八日より品川觀音前三百九番の杭より掛始追く御掛渡可御成旨○同廿三日夜芝新門前小火

武江年表卷十二 明治庚午 三十五

禁阿片

郵便所

○十二月十一日夜霞が關相馬侯藩邸火事○同十二日夕麴町一丁目火事の端半○
 同廿二日夜難波町春米屋直吉ッ宅より失火して長三町半幅平均して二町餘燒る
 町名十八ヶ所なり○同廿三日夜中の郷竹村汁粉餅の店より失火して長百十二間
 幅平均して四十間程燒○十二月鴉片烟御制禁御布告有之鴉片烟の人身に害ある
 といふ事を用ひずして
諸人の聞知る所なり又此物英國より清國へ運輸の事お付
 戦争お及ひし事嚮ふ諸書に載て詳なればこゝにいひはせ○此頃深川猿江に及幼所
 御創建捨子等御養育の所なり○驛遞司に於て善狀郵便所諸方へ御取建あり○神
 田橋外鹿兒島侯藩邸跡今年十二月市中の替地に給はり翌未年家作を營みて新三
 河町といふ同五申年より改て美土代町一丁目と号し次第に二丁目三丁目四丁目
 も出來たりこの内大方の土地にて新規の町屋なり但この一丁目神田橋御門の
 際にて神田の地の咽喉なれば古代の和訓神田の二字をみとらるとよみしにより
 それと假字に改て美土代町といへり此向ふ西側もまた大小名の土地を町屋に改
 て戌年迄追々に出來錦の小路の古名に因り錦町といふ云り又同所の西ふ一番より
 三番迄の火除明地あり昔護持院のありし跡にて毎春近傍の者へこゝを遊觀し兒
 輩の摘草などをして戯れしが此頃追々に御用に付建物御取設あり華族方學習院
 開成所等も此所なり

明治四年辛未

○正月三日馬場先診門内神祇宮に於て 診親祭被爲在ひ跡士民拜禮仰付られ平民
 の男女とも十一日より廿一日迄に出○同六日夜亥刻過下谷坂本四丁目火事半町
 ばかり燒る○同十八日夜伊皿子臺町火事三田臺町二丁目迄長五十間程燒○正月
 より上野山下に柳川一蝶齋てづまの芝居興行○同月九段坂北の側へ廣がり九間
 の幅あ成○同月より雨多は八日彼岸
 の入なり○此頃築地稻葉侯屋敷に在し咳逆平愈の
 願をかくる爺おぢの石像牛島弘福寺の境内へ移る

ボニア
市中區

郵便箱

○二月朔日曉神樂坂火事○同四日午刻大久保村拔弁天社向桑山某宅より失火○向
 トま枕橋の河岸叢林を開きて八百松といへる貸食店を始む○同八日戌下刻淺草
 本願寺後田島町火事田原町迄燒る消防器械ボニア始
 て用ひ便利を知る○同月今般東京中を大八區
 お分ち大島中部分して三十小區を置る○同朔日より五十日の間牛島牛御前王子
 權現社開帳詣人多し○同八日より三十日の間お店長遠寺めて總州中山法華寺
 祖師開帳○同月半は隅田川堤花咲○同月郵便司箱出る東海道中始なり○同月よ
 り淺草寺奥山みて西國三拾三所觀世音靈驗の活偶人見せ物出松本喜三
 郎作なり○同十
 日より四月十日迄小石川傳通院地中慈眼院澤藏司十一面觀世音開帳享保十九寅
 年より百卅

八年目の
開帳と云

○三月三日より三十日の間西新井惣持寺弘法大師開帳○同十五日より五十日の間
王子稻荷社臨時祭禮執行參詣多し○同廿日より六十日の願にて本所回向院に於
て相州關本最乗寺道了并開帳あり參詣群集せしか三十九日目に於て四月朔日乗船
歸國あり其前十七日到着の日おの送迎の男女
富士講其外のもの旗幟納手拭の類を持出し一様の新衣を着し中おの天狗の形ふ出
立同面を被り咒巾襪掛を着たるものあり見物群集してこの道筋へ自在に往來なり
がたし開帳中日より參詣初參等多かりし境内お蹴鞠曲まりの見せ物出る○同廿日よ
又紅勘とよべるる老夫音曲をなし道化の所作をなす見せるものも出たり○同廿日よ
上野谷中門養壽院準提觀世音開帳○上野花見の頃山内水茶屋其外二百八拾餘軒
り程出たる由なり○同月大相模大聖寺不動尊開帳○此頃芝西應寺池に蛙合戦あ
り○同月日本橋四日市町へ驛遞局を設らる○染井栽木屋にて躑躅花壇を源氏五
拾四帖になぞらへて見する

種痘所

西洋風
髮結床

○四月より種痘所改め美倉橋向南茅場町藥師内神樂坂角芝切通幸稻荷内深川
船藏以上五個所に成○同五日曉寅刻淺草並木町煎茶屋より失火茶屋町へ焼込長
一町幅四拾間程焼る明方鎮る○淺草寺門前道類焼場兩側一間ツ、合二間道幅と
廣げらる○同十二日十三日兩日柳橋河内屋半二郎樓上にて故人竹本宮戸太夫五
拾回忌の會宴あり○此頃常盤橋門外笠頭舖に西洋風髮擲所の招牌と出す太き

庶人乗
馬

棹の頭は寶珠の形を彫り右の棹へは朱白藍色の左巻といふ塗分けありて立るこ
れより諸方にこれを擬して一般の形狀となれり○同十九日庶人騎馬をゆると給
ふ町人おの騎ふる町人おの騎○同月柳原土手通須田町地先より淺草橋迄床店不殘取拂被付堤
上の柳を伐り後の封疆一圓に取崩し此街道を廣げらる○同十九日晝より雨降り
しが橋場明神境内に年ふりし松の巨樹夜中お震動ありて其幹を捻折たり暴風お
もあらむ雷撃か未詳ならむ諸人奇として見物す

○五月十一日

博覽會

神武天皇祭典諸社にて執行大和國の方お向ひて遙拜す神社おの境内に方位を
定め地上に席と設け詣人を延て拜せしむ○同十二日明方西河岸町火事○同十四
日より廿日迄九段坂上は藥園の跡お南校物産局より西洋其外の物産を飭り諸人
に看せらる終日羣集する事夥し○同十五日より招魂社祭禮は執行同所前にて夜
花火十六日夜同十七日お晝夜の花火あり十八日十九日雨天にて延ひ廿日晝夜
花火この間競馬相撲あり○同月深川猿江救幼社は廢止に成○同廿八日大川通花
火揚始暮六時より雨○同廿九日曉寅刻過吉原江戸町二丁目豆腐屋庄藏宅より失火して
廓中三分の二焼亡す長二町半幅平均して一町半計なり

明治辛未

三十七

○六月七日雨晴より雷鳴所へ墮櫻田本郷町貸食師 其外七個所程も落しよなり
 ○同月より花川戸町山の宿田町邊へ遊女屋立退所設け商賣を始む借宅と ○同
 十四日十五日日枝大神社祭禮神輿修旅所へ泊 廻町にて車樂伎踊等を催し賑へり
 ○同十四日より府内區別改り四拾四組と成改正月あり ○シヘリヤ國海岸よ
 り惡症傳染せる由疫病行るゝ事に付修布令あり ○同月炎暈數旬亘近年稀なり
 といふ

○七月朔日兩國橋邊大川茶屋の花火ありけれと納涼の舟少かりと不思議なり ○
 同十七日新島原娼廓は廢止娼家七月限り引拂ひ様仲付られたり渡世替又元吉
原町へ示談之上
移住商賣いたし 娼家引拂の後此所を新富町と改一丁目より七丁目迄あり ○同十
い様沙汰あり 九日朝より大風雨深川鉄炮洲沙村逆井堀江猫さね行徳海嘯今井村人家八拾餘宇
 流失すと云々府内も所々潰家多く即死怪人多かりと凡拾里四方程の荒なり
 未刻頃より漸く静になりぬ ○同廿日道灌山田畑村の邊一奇事あり同日夕方洪雨
 降出し比邊一朶の烏雲覆掛り雷霆の如き響ありて田畑村の内興樂寺六阿彌後の
 方東の涯俄に崩れ落崖の下に長さ一町幅二間餘り高二丈餘の深谷を生ト百間四
 方程の所樹木を顛倒し或は根より掘れて遙の田圃へ飛一坂圃二反計あれたりと
 たりとぞ幸に此災變人家への罹らねと田夫二人程行衛を知らざるよ其時四方
 掩暖にして響の二里の外へも聞えたりとぞ此頃見物人日記 ○同廿四日晴七時頃
み諸方より出る
 三田綱坂下元會津疾長屋出火 ○赤羽有馬侯藩邸水天宮赤坂の邸へ移されたれ
 と七八月九月も開門水天宮の始て勸請あり ○此頃諸社の神主修廢止百年祠
掌等修 あり

○八月十五日市谷八幡宮祭禮産子町より車樂十一輛伎踊遊物等出して賑へり ○
 同十八日平民アキカ 袴割羽織着用修免 ○此頃人力車道々諸方に出來て其數ぞ知ら
其製黒黄朱青緋錫粉梨子地等に塗り其上へ山水名所人物武者俳優遊女鳥獸虫魚
草木器財唐草色々の模様持主の町所姓名住所等を蒔繪ふしたるものあり見事な
るあり鹿相なるあり一日芝の邊へ廻りて神田の邊へ歸る道にて百三十餘程を見たり
この頃の大方持主の目印も改たるが多し但人力車の二尺迄を一人乗とし二尺以上
を二人乗とする
るの修定なり

○九月九日より元御本丸に於て十二時知らせの大炮を放たるゝ事今日より始る ○
 同十五日神山大神祭禮當年の神輿行列西神田町々を廻り外神田町々へ來酉年巡
 行すべき由なり今日晴天十四日雨 夕かた止 雨神輿早朝お出づ車樂をせり 内神田より十
 四輛出し内神田のみ曳て夫より神輿とゝもに神田橋御門入大手のこなたへ出
 引返して常磐橋御門出南傳馬町迄曳暮時前歸る外神田へ湯島横町の邊へ俄踊其
所限り廻りしよ見物群集す十

號魁

武江年表卷十二 明治辛未

三十八

六日雨中なれど例の通り ○同十八日十九日牛込赤城社祭禮神輿渡り車樂十八輛程禮參として詣人多うりし
 出伎踊等出して賑へり ○染井巢鴨團子坂菊の造物あり ○九月諸所渡り場帶刀輩たり共賃錢出の様迄有り ○同廿二日より招魂社祭禮迄執行廿三日廿四日廿五日に至る 廿三日競馬廿四日廿五日角力あり菊花壇出來町方に飾りもの等あり詣人多し ○同所南迄藥園迄取拂染井村栽木屋某の庭と成り菊花壇盆種の草木等見する ○淺草寺經堂中の輪藏出來普大士二童子の像も安して同廿一日納經供養あり ○九月築地ホテル旅館等廢止後旅舎と成る此節築地新島原娼廓の跡新富町市店旅籠屋と成る 報帖を配る ○麻布廣尾笑花軒といへるに菊花の造物をなす見物を招く ○同廿八日曉丑刻頃堀留町火事長谷川町出所町へ焼込

銅貨發行
 查巡
 廢普化宗

○十月十日新貨幣御鑄造迄發行の儀迄布告 一錢半錢壹厘なり百年に至る二錢の銅貨迄鑄造あり ○同十三日美倉橋外四ヶ所種痘所迄廢止に成り下谷金杉大野松齋外十一人の醫師へ相對を以頼の様被仰渡 ○同月教育所迄取拂に成 ○同月より人民保護の爲としてポリス三千人迄抱日夜市中を巡查せしめらる 申四月お至り尙又人員を増れたり ○外神田鎮火社迄祭禮當年より十一月十五日に成 ○高田馬場更に畠に成 ○普化宗迄廢止寺僧民籍へ編入 ○吉原仲の町道幅八間おひろがる ○同廿六日より招魂社境地に於て異國の男

斬髮流行
 罷盲人官位

女曲馬の見せ物興行す 二階上樓敷代一人二百正一番より三番迄一人百正又一人物少し面白うらすして價貴く日短くなり寒氣ふも向ひし故なり ○世上に斬髮の者追々殖る 女よもあれあり上野山内清水堂傍茶店と成てトンビを着たるもあり
 ○十一月四日盲人檢校勾當官迄停止 ○同七日淺草黒船町火事三好町諏訪町邊燒 ○同八日明方西河岸町火事 ○同九日曉丑刻頃櫻田本郷町拍戶賣茶亭より失火して兼房町久保町伏見町備前町南の方武家地迄二町程燒亡す ○同十一日九段坂上招魂社前に燈臺迄建立成て今夜より燈火を點せらる 石を組と臺とし上に大なる金燈籠を置り ○同日東京より長崎迄電信線迄掛渡之儀迄布告 ○同十五日夜より十八日朝に至る迄

電線大會
 大嘗會
 豊明り

大嘗會御執行御一代一度の大祭にして御即位有て行る者なり悠基王基の兩神殿を經營有て天神地祇を祭給ふ所とぞ其餘憚あれバ記さざり當日僧尼剃髮の者不淨の者を禁せらる 十七日ハ小雨後成りくもる ○十八日朝雨後曇る豊明御節會により世上一統賑ひ市中お角々お齋竹を立軒お挑灯を掲げたり又各産土神社へ詣り日本橋の邊殊に賑ひて俄お車樂を曳く又伎踊臺ハ日本橋南より多し聲妓ハ裁付袴と云を着て男子の姿に出たち鉄棒を曳く十九日晴天にて朝より曳渡す新橋迄の町も是に同く其外東京中の賑なれど何れも急卒の催となれバ詳なる事を知らざ十九

武江年表卷十二
明治壬申
四十一
武江年表卷十二

國立銀行

禁裸体

區長

銅貨通用改正

日ハ非役華族の修方々廿日より廿九日迄ハ日割を以市民ら紅葉山神殿御補理の御齋場參拜に出る竹橋修門を入り半藏修門へ出る廿九日ハ吉原町遊女男女の藝者參拜も出る數艘の船も乗じ旗を立てやしつれて至る諸人見物す如此黎庶○同月中より海運橋東詰へ第一國立銀行爲換座創立せり其經營西洋に倣ひ五層の鉄柱を用ひ莊麗目を駭せり○同月賤民の裸體修禁止○同廿八日東京府區別を改給ひ尊卑の邸地神宇六大區に分ち其中區毎に小區を置れ中副年寄を戸長と号し一小區に一人并副長一人ツ、を命ぜらる世話掛りの區長と号し大區ハ一人宛たり

○十二月十一日曉丑刻頃通旅籠町火車半町計り焼る○同廿二日廿三日招魂社境内に年の市始る商物諸方の市に同ト本社ハ修造營未成らせ○増上寺後の方芙蓉洲弁才天の池厚氷閉て諸人氷の上を渡る異國人も渡り見物人も多く出る○舊銅貨通用修改天保銅寶十枚寛永通寶青錢十枚文久通寶十枚一寛永小錢十枚○皇太神宮大麻ハ官司より海内一般頒布相成旨修布告此師の檀家と唱ふる事相止む

明治五年壬申

○正月元日快晴○五日雪赤坂水天宮開門あり雪故詣人少し○同六日より十一日迄去年の通り神祇官へ市民參拜と許し給ふ○同八日曉神田旅籠町三丁目隨摩座吉右衛門芝居

七日に興行始しが今曉火事ありて焼る火元ハ隣家柳川新兵衛といふ鱧屋なり長六十間幅五十間程焼亡す○日本橋東南の方へ電信局建物修造營取掛兩國橋の西詰淺草寺門前へも同様修取建お付川添の水茶屋の内引拂被仰付○同十日曉麴町平河町二丁目明家より出火して四丁程焼亡平河天満宮類焼なり○同十四日夜西下刻日吉町元金春やしき出火出雲町焼込間もなく鎮る○修麻河岸の邊ハ觀世座の能興行して見物を招く

○二月五日午刻招魂社正殿上棟式修執行あり同年五月經營成る在來の馬場并武家邸取拂ハ東西五丁餘南北一丁程の所をならし奥の方東向本社を建社前に馬場を殺られ東の方入口より左右ハ玻璃漏の燈籠を建列ね境内櫻樹多く植られたり十年に至り櫻樹への石垣并社の後ハ林泉築山を築せられ花木列り立處々ハ四阿○元武士地町名ハ立或ハ古町へ組合可申旨再度の修布告有之○同十一日より四月十一日迄大塚護國寺觀世音開帳元祿中舊幕府より修寄附之寶物其外靈寶多く拜せしむ誰々も知る所なれど例の六幅の涅槃像假屋をかまへて掛りしを見る長十三間幅四間半ある由堅の方ハ上へ餘りて二間程假屋を天井へ横に引てうけたり下ハ一間計り疊の上へ引たり墨畫にして畫上ハ沙門寂道納狩野種信拜畫とあり他の書ハ落款等記さハれハ費言なれどこハよまるしつ音羽町の内中央護國寺の方へ寄せて一町餘の所櫻木を植たて西大區の内九小區の輩寄付せりといふ當山鎮守今宮此頃畑中へ引たり○同十六日より三月十五日迄柳島妙見宮開帳參詣多し○同廿日より五十日の間回向院境内一言觀世音開帳○異國人男女の曲馬輕わざ淺草寺奥山に於て興行す

武江年表卷十二
明治壬申
四十一
武江年表卷十二

○同廿六日大風未半刻和田倉門内元會津侯邸跡當時兵部省添屋敷より出火す
 焰勢東南に被り山内侯大藏省紙幣寮織田侯司法省等焼亡又坊間へ飛火して西紺
 屋町南紺屋町弓町新肴町鎗屋町彌左衛門町南鍋町一丁目二丁目瀧山町元數寄屋
 町二丁目三丁目四丁目京橋水谷町金六町銀座一丁目より四丁目迄尾張町一丁目
 二丁目同町新地三十間堀一丁目より三丁目迄木挽町一丁目より五丁目迄采女町
 松村町大富町新富町五丁目より七丁目迄南飯田町上柳原町南本郷町南小田原町
 一丁目より三丁目迄西本願寺ホテル其外焼亡及ふ町數四拾一町長廿町餘幅平
 均して四町程なり夜亥刻鎮る焼死八人あり官員方其外富商より類焼の貧民へ施行多し
 災後道幅の事又家作の塗家り或は煉瓦石を用ひの様沙汰有之次第お造營の事
 次に記す○同廿八日肥後國熊本より清正公等身像大川端濱町二丁目細川侯藩邸
 へ着す品川宿より小網町行徳河岸へ着上陸して本町通濱町河岸通より邸内へ入
 る富士講同行大勢にて送る三月始より廿一日の間開帳あり參詣夥し○二月僧位
 僧官の廢止○諸國へ傳信線追々修取設に成る諸人の知る所故にわしくせむ○同廿九日猿若町
 三丁目狂言座守田勘彌新富町四丁目へ芝居移轉之儀願の通被仰付是より造作取
 掛り芝居并茶屋等造作出來十月より新芝居興行す

○三月朔日より晦日迄深川淨心寺祖師七面并開帳○淺草淺藏前ふて十日の間觀世
 梅若能興行○同二日府下家屋建方火災と可凌爲追々煉化石を以て取建る様尙
 又英人ウオトルス氏の示たる方法と以委曲の御布令有之其後銀座尾張町竹川町
 等の大通りより始り次第に修造成り戊年迄往還道十五間に廣がりこの正中と馬
 車道左右を人道とし又馬車道と人道の境兩側へ樹木を栽しめらる通り町より西
 より南大坂町迄又浮堀端比丘尼橋南の方西紺屋町通り山下町丸や町邊迄明治十年
 迄に煉瓦石建物落成す銀座一丁目の貨倉舖松田といへる煉瓦作の内殊に美麗の
 大厦を營み奴婢數人を抱へ○同三日より廿日の間湯島大學校にて博覽會開古
 書古畫古器珍物多く出で追々引換ありこれによつて好事の輩日々に集りて
 歸路を忘る又戊年あり古書
 畫展覽會あり○同十一日 神武天皇様祭典諸人産土神の社へ詣
 つ和州に向て遙拜し奉る○同十一日より百日の間淺草傳法院博覽會あり○十五
 日午前十時過築地外國人居留地六番より出火間もなく消たり○同十六日淺草今
 戸町川村某が物置より出火三十三間餘燒る柏戸六七燒る有明
 櫻も少しやけ込○同十七日曇夕方
 雨淺草三社祭禮車樂をせり等出十八日雨十九日
 同廿日大風雨お付廿一日は渡す○三月一向宗の名自今眞宗と可
 稱旨御布告あり一宗の門徒從來
 の本意を得たり○同廿一日より四月廿一日迄牛込榎木町宗栢寺
 立像釋迦如來開帳○當年富士山北口吉田四月より八月迄女人參詣をゆるす諸國
 より

高江牛乳... 明治壬申

諸人 〇三月初旬より淺草修藏前大圓寺境内にて腹の中にて物をいふ盲女見せ物に出る 〇三月修廓内元武士地一圓町名唱ひ様被仰付 〇同廿九日俠客身躰の刺繡 〇禁止

廢いろ
組

〇四月朔日より芝金杉多聞院毘沙門天開帳 〇四月高輪河岸に在り葎寶張茶店其外殘らぎ修取拂 〇同二日市中の救火卒の内頭取と唱へし者を免職せられ跡小頭水の手世話人道具持等を被命享保以來のいろは組を廢し六大區に分ち其内小區を置いて和俗纏と稱して黨を統ぶの目標をも改めて一大區毎に形を同ふし小區の目を誌すやう修沙汰にて出來改りし程過後後便利よろしくらざる由にて尙以前の姿お形を改たるが多し人數の昔より減り消防隊の經緯も少しツ、改りたり 〇四月五日婦女故なく散髪となる事を禁せらる 〇同廿四日子半刻濱町因州侯藩邸より出火修殿もやけて明方に鎮る 〇同廿五日曉本石町二丁目鰻屋佃治より失火して駿河町本町三丁目通り町へ兩側共燒長二町餘なり 〇同廿七日諸宗僧侶肉食妻帶音髮等修免着用の外平人の着服用ひ不苦旨 〇五月朔日曉葺屋町湯屋より失火 〇同九日諸人通稱實名の内可爲一名旨御布告 〇同日招魂社本社成就正遷宮丑時修執行あり 〇同十五日招魂社祭禮十六日競馬十

肉食妻
帶

通實一
名

御巡幸

七日相撲半藏修門外にて晝夜花炮あり 〇美土代町二丁目日本多侯藩邸の内へ元同家市谷新本村舊邸に安置ありし秋葉神弁才天社を移さる翌年八月に至り社造營成り是より毎年十一月祭禮執行有 〇同十五日より三十日の間深川淨心寺にて身延山久遠寺祖師七面井開帳 〇同十五日より新富町にて觀世太夫能興行 〇同十八日佛蘭西聘船品川へ着 〇同十九日曉雨後深川木場町火事一町程燒 〇深川卅三間堂地震後修修理あり後又半破壊及しまゝにてありし此頃修廢止に成れり此所を數矢町と稱し翌年神葬地となる 〇同廿三日 御發輦にて大坂並中國西國筋御巡幸七月十二日還幸修着輦あらせ給へり 〇五月筋違橋内元おなり道より小川町表裏神保小路町屋と成夫より西へ一橋通町今川小路堀留等なり猿樂町牛込修門内も町屋と成神保町より錦町二丁目小川町淡路町通り殊に賑へり 〇五月頃より牛島なる佐竹侯下屋敷鷲明神へ毎月酉の日參詣をゆるさる庭中花木泉水あり奇石等多し諸人群集す 〇同頃より四谷荒木横町の北松平攝州侯下邸跡庭中樹木を栽かへ谷の中ありし泉水の廻岸の所へ酒肆茶店と列ね五十餘軒遊觀の所とす諸人日々こゝに集ふ 〇五月より諸神社於て説教始る諸聽人聞に出る左記小場所凡始なり 〇芝大神宮 〇神田社 〇茅場町日枝修旅所 〇虎修門外金刀比羅社内 〇淺

説經

賦正非表... 明治壬申 四十二

武江年表卷十二

小學生
徒試驗

草三社△富ヶ岡△深川森下町大神宮△根津社△妻戀社△品川八雲神社△五條天
神社△鳥越社等なり次第ふ盛にして諸社諸寺お肇れり○此頃官立小學校於て日
割と以生徒試業の事と開かる其場所ハ△西久保巴町柄繪學校△下六番町番町學
校△神樂坂善國寺牛込學校△湯ヶま麟祥院湯島學校△淺草西福寺新堀學校△深
川船藏前西光寺深川學校△小石川傳通院礫川學校△愛宕下櫻川學校△眞土山待
乳學校△向島須崎村牛島學校△三田臺町藥王寺御田學校△深川龜住町陽岳寺村
松學校△淺草並木町並木學校△八丁堀坂本町坂本學校△小川町錦町錦坊學校

○六月十五日日枝大神祭禮神輿三基の内一基を渡す行列甚定例の道筋なり附祭當

日曇天後雷雨鳴有○同日本小田原町に於てあらたに水神を祭り神輿を補埋町内
の假屋を設て安す車樂一輛を造り聲妓數人を庸ひ木遣の唄をうたへせ又檜前と
唱ふる鴟の者多く庸ひて此邊町々を曳しむ一時の賑ひなり○同初旬より南鞆町
薩摩座芝居成興行す○六月湯島博物館中に書籍館建設村漢の群書普く看讀す

書籍館
大祓

る事を免さる後淺草湯島前にも○同廿九日大小神社に於て大祓執行當日社頭
を設被物を陳す座を右新薦を敷中央高机を設被物を置其前を被詞の座を設く祠
官神殿を昇開扉し次宮司祝詞を奏し神官麻を執て各被し切麻といひささ木の申へ
附たるをいひ官人神官着座の後と前へ配り置群衆の諸人へ切麻おて被ふも又拜
禮のみならずとも心々たるべし被物の木綿晒布等なり後細く切て河海お流し棄つ切

禁香具
師

晦日ハ名越祓とて各執行せり川邊にあらぬ所ハみそぎ川になぞらへて水盥に
水をもり置はらひ終りて此水中へ罪科を流し棄るの意なるべけれど參詣の者た
ゞに尊き物と心得て社前にて商ふ所の竹筒と求めこれに其水を汲入て家お携歸
り或ハ飲み或ハ屋中に釣りて守とする由なり

○七月朔日曉寅刻淺草三間町火事一町計燒○同二日夜子刻過赤坂新町火事一町計
燒○同九日香具師名目廢止此黨隊を分ち其内價造の賣藥を弘め其餘種々○同
十五日より六十日の間回向院に於て下總國幸手宿の邊中田光了寺真不動尊白拍

子静の現影開帳あり當寺什寶義經卿より給はりし白拍子静が舞衣を見せしむ此
館人少くして靜の前の名もま○七月より淺草寺奥山ハ南京の脊高き人見せ物に
出る簷正丸といふ身の丈八尺餘なりこのまより便面又唐紙の類紙○同廿六日鼠
山なる感應寺に一旦安置ありし祖師の像廢寺の後池上本門寺へ移置しを今日牛

鬼流行

込築土禪宗万昌院の境内を借て堂宇を營此所へ移しまゐらすとて法華宗の構中
例の旗を立芝金杉通りより通り町筋須田町迄西へ佐柄木町雉子町四軒町猿樂町
水道橋通りと送る諸人群後ハ淀橋へ移す○此頃より始めて鬼を弄ぶ人多し高價

武江年表卷十二

明治壬申

神葬祭

を以て購ひ勝劣と争ふ輩ありを催す ○廿日より九月廿日迄増上寺本堂に於て
黒本尊開帳 表の門内兩側水茶屋軒を列ねたり其外山内茶店酒肆見せ物の假屋等 ○
山内芙蓉洲弁天社向其外稻荷社廢止 ○同十九日神葬祭被 仰出ひに付て、青
山百人町續足山并澁谷羽根澤村の兩所を士民一般の葬地と決定有之旨御布
告あり其後成の九月九ヶ所に御定あり

撤見附

○八月朔日より三十日の間傳通院地中福聚院大黒堂にて落合村藥王院釋迦如來開
帳境内に芝居興行 ○飯倉町金剛太夫宅にて能興行見物多し ○同日廿一所御門廢
撤被仰出 日比谷 數寄屋橋 鍛冶橋 吳服橋 常盤橋 神田橋 一ヶ橋 雉子橋
山下 幸橋 新ヶ橋 虎の門 赤坂 喰違 四谷 市ヶ谷 牛込 小石
川 水道橋 筋違 淺草等なり ○同十九日下谷坂本小野照崎神祭禮車樂數輛を曳
り中おの石垣も取拂あり ○同廿一日神田大神社四月の太々神樂今日に延て興行あり
例年よりも賑へり ○同廿一日神田大神社四月の太々神樂今日に延て興行あり
大崎昌唐ぬしの周旋より神前ふ於て舞樂を催せり万歳樂
龜喜樂 殿王 納曾利なり十二時過て濟夫より例の神樂あり ○同晦日芝神明宮を
芝太神宮と改給ふ ○東京より西京迄電信線出來 九月七日より
報信は始め

電線成

鐵道成

○九月四日越中島に於て近衛兵訓練の休載
天覽あり ○同十日元仙臺侯屋敷に奥州搦竈明神遙拜社祭禮をとりぬりもの
月鐵道開業成功に付十二日開業式被爲行同日臨時 行幸被 仰出朝八時新
橋より鐵道橫濱へ 御幸即日還幸當日新橋の橫濱鐵道館及濱離宮園林延遼
館等諸人參拜をゆるされ一かゝ貴賤群集夥しかり一新橋南北京橋邊所々車樂伎
踊臺等を設て賑へり鐵道の入口に足代を組て紅白の挑灯夥しくかゝけ境内樹
木の枝にも挑灯を下夜に入て燈火を點したれば其光景いはむりたなり其外の經
營市中の繁昌言語にのべがたし夜お入りて 花火あり 右相濟て後市中へ酒肴を賜る翌十
三日より始り新橋ステーションより橫濱へ氣車運轉業を肇らる ○同十四日僧侶
苗字相設住職中の者ゝ某寺住職某氏名と可相稱むね布告あり ○同十五日神田
大神社祭禮當年より隔年に執行致し神田町々へ東西五ヶ年目お神輿を渡しまる
らすへき筈に極し由なり當日神輿道筋の外神田町々を廻り美倉橋渡兩國橋邊濱
町塚町高砂町難波町小網町鉄炮町小傳馬町邊東神田町々より和泉橋渡歸社夜子
刻に及ぶ錦蓋翳四本五色旗の當年より始む 當年の産子町々より出しぬりもの多
く出るされと慶應以前のなうにモ
足ら 車樂三十五輛伎踊臺三荷地走跳も出して賑へり ○同十七日伊勢兩宮祭典
に付遙拜所式神職被命ひに付諸人産生神社へ詣り伊勢の方へ向ひて遙拜いたし
ひ様布告あり 此度も境内地を撰席を設けて詣
人を招す是より毎年執行なり ○同廿二日天長節 伊勢長
の御祝

僧侶苗

神宮遙

天長節

儀に付廿二日東京御府に於て市井の者へ御酒千樽を給る六大區へ分ちて頂戴せ

廢修驗

りこれにより同夜より廿七日頃迄町々の内俄に車樂を拵へ又ハ伎踊と設け晝夜に町小路を渡す但し廿三日廿四日雨降たり ○同日修驗宗之儀御廢止本山當山羽黒派共從來の本寺所轄之儘天台真言之兩本寺へ歸入の儀御布告 ○同廿一日雨降招魂社御祭禮廿五日競馬あり ○廿二日神葬祭の事望により寺内へ埋葬いたし度者ハ寺院ホて差支なく取計可申旨御布告ありしが酉年十一月にいたり寺院に於て神葬祭兼行の事を停らる ○同月法相宗華嚴宗律宗兼學宗融通念佛等の五宗各派其餘別派獨立本山無本寺等相當の總本山へ所轉の事被 仰出 ○同廿八日精鐵錢と唱ふる寛永通寶の錢四文錢八枚を以新貨一厘換に御定 ○所々ハ西洋畫の硯からくりを造り設見物を招く夏の頃より淺草寺奥山花屋敷の脇に始る夫より續て出来る

△神保町二丁目池田氏六 △同一丁目十月始 △増上寺山内二ヶ所九月 △芝太神宮内△田村小路日本名所 △烏森稻荷社西通日光山名所 △芝日蔭町△淺草寺淡島社後九月 △九段坂上同 △湯島天神下十月 △修藏前床店十月 △麹町平河天神内△下谷修成道西側十月 △四谷あらし横町△淡路町△車坂町其外翌酉年中へ掛け追々所々ホ出來たり明治九年の頃ふいたり ○下谷元修成道五軒町酒井侯跡 十月の頃より後の方建部侯跡に梅園をひらく中ハ池あり梅樹其外植こみ座敷と建酉の春より酒肴と傳

娼妓解放 貸座敷

ひて遊觀の所とす程なくし ○十月娼妓藝妓ハ人身賣買同様の所業に付御解放の上其主人へ引渡しの様又從前の娼家とハ貸座敷と心得の儀御布告有北頃遊女歌妓を徘徊するもの ○十月魯國親王延邊館へ來着此間所々遊歴あり ○今月より新富町芝居興行

違式註

大禮服

○十一月八日違式註違御條目御布告あり印行の本ともて公布し給 ○同月十二日勅奏判官員及非役有位の輩大禮服并上下一般通常の禮服御定に相成從前の衣冠と以祭服と爲し直垂狩衣上下等御廢止被仰出但武官禮服ハ從前の通たるへさ旨御布告有之其圖ハ今日用らるる所故寫し出さる平民の麻上下停止 ○十一月錄倉光明寺に在る正觀世音の銅像巨像も古しを住職心なく沽却せけるが購得しものハ東京本所の者にて是を換鑄して器物お造らんと思ひ東京迄船を借りて廻しけるに間もなく合家病痾に罹りて煩ひければ此佛像の崇なるべしと鑄冶の事を歇め假に御船藏の趾に茅茨を覆ひてこゝに安置しけるに諸願成就する由云ふらして日々參詣群集しける後に深川高橋の北に安す參詣人たえむ ○同月赤坂の水天宮蠟燭町有馬家邸へ引移あり夫より月々一日五日十五日開門あり詣人彌増たり ○同月兩國橋畔の茶店廣場の看せ物虎御門外茶店九段坂上御堀端の茶店等殘らぎ取拂の様被 仰

付たり○同月廿日今般太陰曆と改られ大陽曆御頒行有之來る十二月三日を以明治六年一月一日と御定み相成ひ旨御布告あり時刻表も活字版の御布令あり委くハ改曆辨福澤氏著新曆便覽金田氏藏板太陽曆圖解橋爪貫一編等の板本を得て知るべし○茅場町より小網町へ渡る鐵橋成就○同廿五日 神武天皇様御祭典濟盃廿六日吹上御庭庶人拜禮み出る○同廿七日より山下御門内元薩州侯屋敷にて博覽會拜見を免し給ふ金銀鑄銅鐵鑄化石藥種石炭奇竹塗物鑄物花瓶磁器和繪類小兒玩器木偶土偶寫真畫竹細工農具織物蠶繭類書籍奇獸干タル物罷白茶鳥生たる樹木穀類蝶種類水晶類其餘古代の器物等數多飭てあり

明治六年癸酉

○一月一日晴○同一日今般御改曆ふ付人日上巳端午七夕重陽之五節を被廢神武天皇御即位天長節の兩日を以自今祝日と御定に相成ひ旨御布告○同十一日申刻本所荒井町火事○同夜予下刻吉原、町より出火廓内ハ半町程の焼亡なれど田町へ焼出猿若町三丁目へ飛火して曉にいたり鎮る○同十五日今般府社并鄉村社を定られ祠官祠掌仲付らるゝに付其他諸神社從前の祠官都て御差免との旨御布告府社二十五字 村社百廿五字○同廿三日孝明天皇様御祭典諸人産土神社へ參詣す○同廿七日夜

戊半刻橋町火事横山町壹丁目二丁目迄類焼○同廿九日神武天皇様御即位を以紀元と御定御祭典被執行○一月より小區毎に屯所を設られ官員方出張番人と被召抱市中保護の爲夜々區内巡見の事始る○一月中より新橋向馬車蒸氣車鉄道修繕に付車留

○二月五日夜本郷新町屋出火一町程焼○同八日より三十日の間淺草寺町正藏院に於て下總眞間弘法寺説經祖師手兒奈の像開帳安産の守を出す○同十五日夜十一時今戸橋拍戸有明樓失火近邊少しく類焼あり○同廿日夜十二時過南佐柄木町茶漬屋松より失火して八官町加賀町南鍋町へ焼込○二月劇場四ヶ所へ修免四谷荒木町本郷春木町三丁目深川富岡門前仲町芝新堀町將監等なり右道々ハ造作成狂言興行但深川の未成らむ○濱町壹丁目に梅園を開く茶亭を設け遊觀の人を招く家作退々美麗お成る○三月十日曉二時淺草南馬道正藏院地借寄セ場久右衛門宅より失火東へ花川戸町半町計焼込○同十二日昨十一日より曉二時深川碗藏出火雪中なり○同十五日より三十日の間淺草寺町經王寺眼病守護日朗上人像開帳○同十六日神田大神社拜殿於て能興行觀世鐵之丞梅若六郎奉納○同十八日より六十日の間上野慈眼堂開帳○三月朱引外の區別改正繁けれハ略す○同十八日より六十日の間淺草寺境内にて日光

諸酒類類集卷十二

山神廟

山中禪寺走大黒天開帳執事滿願寺 ○同廿二日より四月廿日迄谷中大圓寺瑤守藥王并開帳 ○同廿六日牛込納戸町より出火日暮雨少し降夜へかけて焼る ○虎彦門外京極家裏門通追々町屋と成る幸橋門外南方も町屋と成る ○上野花見の頃山内茶店舗去年よりも倍して寸地でもらさざ

○四月五下總國成田山不動尊深川永代寺に於て當月十七日より六十日の間開帳に付今日到着遠近より送迎の人數夥しく出る例の通り神田のもの一人も出で開帳中境内茶店食店等六百餘軒を列たり又見せ物多く十八軒出る日毎に群集す ○同八日より三十日の間淺草八軒寺町本法寺熊谷普賢菩薩開帳 ○同日より三十日の間小石川白山大乘寺鬼子母神開帳 ○同日より三十日の間愛宕下鏡照院本尊身代不動尊開帳 ○同十六日夜十二時過元飯田町中坂より出火冬青樹坂其外一町半程焼亡せり ○同十九日小網町二丁目小あみいなり祭禮筋物あり參詣多し ○同廿日夜十一時過神田旭町鍛冶職彌之吉宅より失火長東西廿八間幅二十一間の焼なり火元は焼死二人あり ○四月頃より本郷春木町一丁目奥田座蠣壳町二丁目中島座久松町合併新町喜升座等の歌舞妓芝居次第に造作なりて興行あり芝居の東内藤族番邸跡に藤基社とある其の家祖先を祭し所なる由いなり秋葉神を相殿とす ○古くより蠣壳町濱町矢の倉と唱へし

大小名の藩邸此頃町家となり縦横に小路を開れて市店檐を排ね蠣壳町一丁目より三丁目迄濱町も同一丁目より三丁目迄になり新大橋西詰と菖蒲町と号すかきから町に水天宮を移され又中島座の劇場もこゝに開しより殊に繁花の地となれり松島町に諸方往來の道あらねば江城下の僻地と唱へしこのころは少賑へりと見ゆ大川端川口橋の西に池鯉鮒明神觀音堂を營れ又成年より矢の倉に楠公の社創建の場所も定り亥年中同所に成田山不動尊の旅館といへる遙拜所も出來て日毎に參詣多し ○烏森稻荷社の側溝口彦邸跡鎮守諏訪明神相殿に稻荷明神秋葉神社残りて側に池あり此邊町家になりて烏森町と云この頃より始り年々十一月廿八日祭禮を行ひ軒挑灯幟等出して賑はへり其向側に竹川町なる花月樓といへる貸食舗の支店この頃店を開き狐穴亭と号し後湖月亭と改む池田彦邸跡にて庭に大なる池あり差渡十間餘りも有べし中島ありて樹木を栽獨木梁を架したり本屋の外三方に小亭と設て趣あり東京市中の拍戸よりる泉水あるもの外にハ見えぬ月夜によし此邊より佐久間小路出村小路と唱ふる所愛宕下通りけ町の西側等多くの市店となりたり此餘武家地の沿革市中の變化に諸方にありて枚擧に遑あらさればこゝに記さざ江戶圖を以て知り給ふべし ○下谷元おなり

武江年表卷十二

明治癸酉

四十七

成瀬利成贈

道東側裏にて春五郎といふ者歌舞妓狂言みてづま輕業綱巨り等を交へて芝居興行故ありて間なく止む

○五月一日畫人狂齋柳橋河内屋半二郎樓上に於て千枚畫をなす草筆の達者なり

○同四日晝十二時過駒込片町より出火一町半計燒○同日朝和泉橋向病院の長屋より出火○同月鎌倉町河岸龍閑橋際御用木材置場取設み成る○同五日午前一時御所炎上六時鐘火赤坂離宮を假皇居と御定に成○同十五日より六十日の間回向院に於て高野山弘法大師開帳十二日着あり其日開帳中境内に擊劍會西洋覗りらく

り朝比奈三郎と大黒天の巨像各三丈餘の活人偶化もの二ヶ所其外見せ物多く出る○同十六日曉本郷春木町小火○根津社の後通屋に瀧を作り亭を設け酒肴を售ふ○當年四月の末より擊劍會とて劍術の師場を構へ試合をなして見物の人を招く又柔術馬術等もありこゝに其大畧を記す△淺草左衛門河岸四月末より御原

見物群を△表神保町南側裏壘地五月末より△猿若町三丁目強矢と女△淺草西福寺内齋藤彌九郎△櫻田久保町島村勇雄△濱町二丁目六月始より東大關正田二郎西大關

△下谷五軒町磯正智同正信同素行福田八之助黒澤敬太郎外略之△淺草壽町千葉周作△馬喰町郡代屋敷跡十一月より草苅庄五郎馬術又歌舞

△左衛門河岸六月より△靈巖島越前堀釘鎗長刀鎖鎌柔術渡邊樂之助

△大川端清正公内△芝濱大久保侯邸跡△同中川邸跡△淺草門跡前△四谷壘町其餘次第出來たり○此頃馬喰町北郡代屋敷の跡み細女命秋葉神合祭の社建つ此所わあづま狂言となづけたる日限の芝居興行○五月日本橋造改造成就西洋風を以中み車馬道○五月筋違橋門内廣場連雀町へ合併の新町屋四千五百家作取掛る中み縦横の小路をひらけり此連雀町新町家の元諸侯の邸故大なる望火樓ありてを工夫して頂上より下座敷迄油繪の覗からくりを仕掛けて見物を招がり樓上より四方を眺望として少く趣ありしがや、廢れたる頃亥年の災に亡ひたり

大教院

○六月十七日芝山内へ高皇產尊天御中主尊天照太神宮御鎮座神祇官より移し奉る夫に付富士講其外雜人旗幟を立或ハ車あて曳せ離子ハヤを入れてこれを送る東京中ハ更なり近在よりも出る道路の賑ひ大方ならず十八日ハ法華の講中夥しく出る當山増上寺の號を改て大教院と成る山内を公園と稱せらる○淺草寺山内をも同じく公園と稱らる○六月六郷矢口新田社を府社に仰出さる

○七月六日より連月一六の日大教院に於て説教あり○同八日九日日枝大神社祭禮

御所炎上

武江年表卷十二

我信千我請屋

神輿一基と渡しまるらす十二日茅場町旅所より歸社○同廿六日大川花火今年始
て上る水陸ともに賑へり○同七日短冊竹屋上に立る甚少し○同廿七日より相州
大山石尊大祭八月十七日迄執行東京其外諸國より詣人多し○七月より筋違橋よ
り北へ寄てあらたに石橋造營十一月に至て成る次○同卅一日山下門内博
覽會濟む尙又毎月一六の日展覽の事始る○淺草西鳥越町なる中西某三味線堀と
鳥越の間松平下總守殿邸跡へあらたに伊勢大神宮を建つ社前スガ麻社神樂殿等
建立後の方高さ三丈計の山を築き三方に池を堀り松櫻其餘の樹木を栽並へ
池邊に藤棚を作り四時の花木をうゑ茶亭を補理し諸人遊觀の所とす大半事成り
し惜むへ一十年の半より故有て社地を廢し木を伐り山を崩し池を埋たり忍侯
藩邸の鎮守一目連の社に今に残れりこの所十年秋より諸の看せ物の地と改れ
り

○八月五日より十日迄小船町八雲神旅出七日より南傳馬町須賀神旅出大傳馬
町八雲
神の當年修○同四日より百日の間連雀町の内新町屋於て操芝居興行八形遣吉田
旋出なし

○八月消防器械のカグワサン修廢止

○九月一日愛宕山正面數十級の石階を馬上にてやすくと昇降する人あり修藏前
片町の

人なり元小金牧士の由て諸人備
眺して駭歎す石井清三郎といふ

○同日より三十日の間新井村梅照院藥師如來

開帳○同四日府下病院愛宕下町二丁目元本多侯邸跡へ修創立あり貴賤四民差

別なく望の者の逗留修療受む様修布告有之仁惠の遺所なき諸人感服す○同六

日本小田原町安針町水神祭禮○同十七日淡路町二丁目善神王宮祭禮賀來宮とい
ふ松平五衛

門尉殿邸
内なり ○芝山内茶店の庭に菊の造物出来る○同十一日より廿一日迄芝太神宮

大祭執行○同十五日より廿日迄押上最教寺宗祖像七面并像開帳蒙古退治の曼茶

羅と拜せしむ○六月以來炎旱數旬にわたりしが九月より霖雨つゞく○同十六

日より上野東照宮庶人參詣する事始る府社被仰出黒門前へ奉納の大帳を立つ

此邊の市中あの修葵修紋のちやう
ちん多く掲ぐ十六日晴十七日雨

○同廿三日風雨家屋垣塀を倒す高田外山の邸中

出水泉林とも損ふ怪我入るあ○九月より神田多町二丁目綿貫幸助といふ者葬禮

の時棺にかゆる貸車といふもの願濟にて製造し行路の遠近をはかり價を定てこ

れを貸す其肆の連雀町の廣場へ出す

○十月九日第一大學區東京開成學校修新築竣功に付開業式修執行今日 御臨幸あ

り其跡諸人拜見と免さる結構日を駭々せり○同廿八日四年七月清國假修條約結

れひ處本年七月本條約互換に相成ひ旨御布告

清國條約

武江年表卷十二

明治癸酉

四十九 我自刊我書

○十一月一日筋違橋の左に新たな筋違營の石橋成就して万世橋と號せられ今日より諸人を渡らしめらる俗に目ダね橋といふ其筋違橋相生橋の廢せられ此邊の堤をも取崩されたり此邊葎實園の茶店カヌシヤ籠頭舗等残らず取拂ふ○同三日天長節御誕辰御祝儀なり華族方參朝酒饌と賜る此改曆の後々々本月三日と成貴賤日の丸の旗國旗を出す是より此祝儀毎此旗と立るなり○同三日曉濱町藝州侯跡淺野家邸より出火三十間計り焼る○同五日より七日迄招魂社祭禮九月より延たるなり競馬相撲等興行あり○同九日夜十一時藥研堀火事濱町邊迄燒二時過消る○十二月九日曉一時過柳原岩井町紙屑屋より失火して小傳馬町馬喰町大坂町銀座小網町二丁目三丁目靈巖島迄燒亡夜明鎮る○淺草御門石垣共取拂に成○同廿一日夜増上寺本堂炎上鐘樓も燒亡す山内は恙なく浪士竊お放火する所なりといふ辰年中上野中堂池魚の災に罹りてより問もわらずして當山おもかゝる大反○淺草橋掛換石橋も成秋より始り戊年二月に至り成就す△俗に太鼓橋といふ万世橋をも兩輪あるをもて俗に目ダね橋といふ「りけて見る目ダねのはしや音にさくつゞみのはしをうちわたりつゝ」○京橋より新橋迄新築馬車道落成に付來戊年一月五日より諸車通行を開かる○今年郷社と定給ひし牛込赤城社淺草鳥越社同八幡宮鐵炮洲稻荷社他

島住吉社千住二丁目西森神社下板橋氷川社神田鎮火社等也

武江年表卷十二畢

附録

○近き頃世に行るゝ物其大畧を擧ぐ

- △新開町屋町名改隣町合併町小路新開△人力車馬車鉄道△公私學校△社寺説經
- △煉瓦石家作西洋風家作△桑茶園△商家高旗△椅子△タア△一人曳商車
- △博覽會△寫眞鏡油繪△石盥△西洋繪扁額△同視カラクリこれい少し△活字版
- 製造肆所よみ△ブリツキ諸器物△漏刻工商根付△短キ烟管△大胴亂△蝙蝠傘△
- 玻璃漏障子同鏡△ランプ△懷中付木△西洋衣類裁物器械△床店兩替△西洋
- 吳服店△同骨董舖△同料理屋室西洋風造たるが多△驢馬洋犬△犬の
- 芝居△西洋影繪△同手づま△牛肉豕肉店△牛乳賣捌所△麵包種類多△パンを蠻
- 用するも簡にしてよし△西洋酒類△ビール○アランダ○オルトン○シャンパン
- △薄荷水△氷水△あんま水△レモン水○シンク○ピヤ○麥酒○オイ
- 靴△髮櫛床△醫師浮屠商家其他惣髮賤民の雜髮△白齒婦人△女學校通學少女袴
- △郵便△新聞誌數種有り日よみ△刊行する△舶來草花只類多けれどなつくりしうら
- 品行る△磊落の草畫畫軸屏風扇等おつくりて商ふ△西洋紙△テンブラ屋近頃
- を商人家次第用たり岩瀬百樹の蜘蛛の糸巻といふ草紙が家兄山東京傳が體
- 語を擬してなづくる所といへりまうるに安永十年豊竹東次が作の江戸淨るり昔頃

今物語の内橋夫の誦名おてんぶらといふをまゐる
せりこれハ京傳ガ若き頃なればいらいあらん

癸酉十二月以降の事ハ未稿を脱せざるが故こゝみあらはさざといへども數種の新
聞誌日毎ハ刊行して政事より下民の事務世態風俗に至る迄漏るゝ事なく次第に
盛ハ行るゝ故彼摺本を得て詳なるべし此ハ甲戌以來の内尤きものハ左に其目を
學ぐ

△徴兵御撰擧△巡查屯所市中廣場へ創立△諸商職御鑑札渡り調賦上納△救火
卒賦標を改る△傳信機次第に取設△瓦斯燈△街衢へ設らる△土民一統帶
劍停止△測量櫓所高岳其外へ取建△王子瀧の川側製紙所創立△上野へ
貧婁の病院取設淺草橋内全斷△冶容洲河岸へ合歡木百株を栽らる△日蓮宗不
受不施の派再興△上野廣小路又万代橋南車馬道出來△常盤橋鍛冶橋京橋江戸橋
設丑の秋勸業博覽會を始らる池の端新土手築せらる△荒布橋淺草橋等悉く石橋造營あり永代橋兩國橋大川橋修營成
淺草左衛門橋麻橋田昌平橋等新規掛渡△茶茶水女學校創立△神田橋外華族
學校女學校創立△小石川水府藩跡造兵司銃炮製所取建△靈巖島本所一ツ目
前裁物市場立ッ△芝山内の内開拓司博覽會始る△射擊銃の戲始る

△射擊銃の戲始る俗坐敷鐵炮といふ市中所々ハ△揚弓場市中所々に出來る何れ
年若き矢取の女出る壯歳の士族平民とも輕樂の遊戯する所なり△屠牛場所其外決定△倭杖神原鍵吉殿の工夫場
て見△コレヲ病再流行ハ付數度布令△神田社に常州洗磯崎少彦名命合祭同社
地に平將門社新建△同所北杉浦家邸跡に清正公社祖師堂新建△茶の水へ高松
侯鎮守金刀毘羅神移靈巖島越前新前金刀比羅神勸請△淺草鳥越三味線堀の東松平下
總守殿邸跡へ太神宮勸請△下谷立花侯邸跡へ細女命勸請△西福寺境内へ道了井
堂新建△淺草堀田原へ下總佐倉の宗五靈社新建△佛菩薩像他管へ出開帳制禁
△廉價の旅舍所々へ出△市中所々ハ温泉場を開く何れも座敷を建つちね厨饌茶
○三田四國町育種場創創△于年冬より外神田鎮火社邊壘地に大なる看せ物假
屋四十餘棟を營む半年餘興行し丑の夏に至り殘らぎ取拂被仰付淺草鳥越井美倉
橋の北なる壘地に於て見せ物興行の場決定あり又同所東太神宮の邊にも同様
免あり△年始の万歳歳末の節季候停止あり△夏より本所三ツ目綠町五丁目
壽座歌舞妓芝居興行を始む△丑年中西國戰爭の騒劇ありしハ無程鎮靜あり
大事件にして容易に寸緒とさへ記しなれしハ刊行の數種の書ハ出たるを以こ
こに贅せき△東京府國立銀行道々數ヶ所に創立△丑冬勸進相撲に婦女の見物と

- 八△丑冬万代橋の東に新橋成る昌平橋と號し便利なり
- 此頃世に行る、新聞誌目錄大畧をえらす辰年の頃梓行ありしもの、同年の件に舉たり此餘諸州にて刻するもの、こゝに載せむ
- △朝野新聞△近事新聞△假名讀新聞△東京日々新聞△支那事情△橫濱貿易
- △報知新聞△曙新聞 △魁新聞 △問答新聞 △日本新誌△講字餘談
- △内外兵事新聞△洋々社談△報四叢談△繪入日曜新聞△木の葉新聞
- △風雅新聞△學ひの曉△寰海新聞 △人力新志 △傳信雜誌△開知新聞
- △風流珍聞△立憲記事△穎才新聞 △明教新志 △支那新聞拔萃
- △學庭芳拾錄△花實新誌△五洲近事△官令誌 △内外記事△明告新聞
- △醒世新誌△壁磔記事△市告全報 △道の栞 △御布令新誌△教門雜誌
- △官令全書△五十日新誌△居士叢談△日新表 △公布日報△東京集誌
- △玉石の庫△新聞事實△官令新誌 △信教雜誌 △神敬叢語△御布令雜報
- △公布の寫△說教叢錄△御布告書 △東洋新報 △花月新誌△あづま新聞
- △東京新誌△花謠新聞△平假名新聞△草莽事情 △莽草雜誌△文明新誌
- △江湖新聞△橫濱新聞

此他農業又ハ商賣の事に關したる新聞有れど繁ければ畧す且前後并に甲乙をいはせ視聽およりて記すものなり○十年五月東京名勝圖會二卷梓行す岡田松坡といふ人の篇なり鐵道氣車傳信線郵便の起原此書に見ゆ

齋藤幸成翁通稱ハ市左衛門月岑また松濤軒と號す世々江戸神田の里正なり博覽強記にして著述に富むも更に無用の贅文を作らば斯書并に東都歲時記聲曲類纂等この餘未刊の書ハ睡餘草稿廿四卷松濤軒雜纂四卷武江振災記畧五卷の加さ考証穿鑿具に至り加るに自畫を挿入す裨益尠ならざるの書なり殊に江戸名所圖會ハ翁の祖長秋居士の起稿に係るも月岑をふ至りて完了し善本とし

て世に行へる曠世の擧にして江戸の地誌肇めて備へるといふも過稱にあらざ
斯翁の著述に熱心なる往時安政乙卯の震災ありその家も傾危の厄にかゝる
然るに翁の詰朝飄然として紙筆を携へて立出づ家人らより難き官途の用お
もと思ひおしに其日より日々都下の災況を奔走目撃して洩さず筆記せられぬ
この平生の事ながら此災の諸人恐駭措くを知らざるの變事なれば殊に驚き思
ふ所なりとぞ造次頼沛の間も著述して後世お益する事に懈らば此一事もて
知るべし隨て記事の明確なる證するお足るべし明治十一年三月六日家お没す
享年七十有五淺草本願寺の塔中法善寺に葬す斯書前刻八卷天正十八年庚寅よ
り嘉永元年戊申に至る同年十一月刻成て世に公にす此編の翁が遺墨の家お藏
するものなり嗣子喜之助氏と謀りて其志を成すと云爾

明治十五年七月十七日京橋畔の我自刊我古書保存屋に記す 甫喜山景雄

本所區相生町二丁目廿五番地

明治十四年七月 日御届

著述人 故 齋藤 幸成

同 十五年七月 日出版

出版人 京橋區西紺屋町九番地 甫喜山景雄

